

育教の兒幼

號四第 號月四 卷三十三第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本日

東京女子高等師範學校助教

石田はる先生著

和服裁縫系統的精説

和服裁縫を科學的に検討し系統的に組織立てその教授法の原理を精確に把捉せしむ!! 文檢要書

和服裁縫と言へば實際家は單に技術に訴へ又理論家は唯々斷片的の理論に終始する爲眞に兩者の合致を得ず。畢竟の等が現在の小女學校等の裁縫に教授する教育的効果を危ぶまれる所以となる。石田先生は女教師に裁縫に教育官としての職現在十二ヶ年其間和服裁縫の全般に付て科學的に教育的に検討して之を系統的に組織立て其内容としては從來の傳習的因襲的の何物にも捉はれず凡ゆる流派を超越して其綜てを創造し理論と實際とを眞にヒツタリと融合せしめ活用自在の要領練磨處理を最も合理的に會得し、又裁縫教授法の原則を最も精確に把握し得べく故に専門校女生徒の學習書文檢受驗者の參考書實際教育家の絶好指針として乞御必讀。

上卷 價二圓五十錢 送二圓十二錢
下卷 價二圓八十錢 送二圓十二錢
合輯 價四圓五十錢 送三圓十三錢

東京女子高等師範學校教授 堀七藏著

四版 研究 自在 家 專 實 驗 室

讀むと聴くだけ の弊を脱した家の事實驗研究書

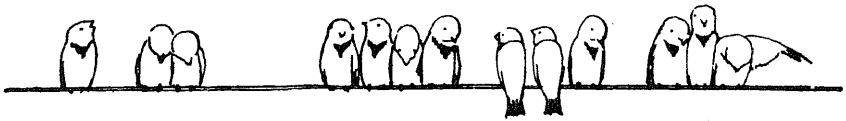
女子教育の必須科目家事科が從來現在其その眞價を是非せらるゝ所以は説く所が現論に傾き易く、斯學本來の目的に背馳するからである。實驗科學の權威堀先生は多年教授の經驗と專攻の實驗實習學を基礎として本書を著し隨つて本書の記載は一句として活用し得ざるなく、衣食住の三大類百冊の下に百數十項を設けて徴に入り細に互り綜合網羅的に家事學の全般事項を説く、故に本書一冊は優に類書百冊の必讀を乞ふ。體系に於ても又一生面を開けるものと確信す。教授の諸士は勿論斯學研究者及や檢受驗者の必讀を乞ふ。

全一冊洋綴 紙數六百四十 價三圓八十錢 送料十八錢

振替電話 東京三三三 八三三 四二七 番

店書館文中

發行所 東京市牛込區 一丁目四七番



號四第 育教の兒幼 卷三十三第

—(次 目)—

口繪 おすまふ	倉橋惣三(一)
眞實(卷頭言)	倉橋惣三(一)
勤勞家庭の幼兒の保育	朝原梅一(二)
乳幼兒愛護週間について	高島巖(七)
五月の觀察	堀七藏(一五)
年長組の新保育期に(一)	新庄よしこ(二〇)
エホンシヤウカの歌詞について	新國寅彦(二三)
世界人形行脚	高市次郎(二六)
園兒の嫉み家庭との連絡	永觀堂幼稚園(三)
若き保姆としての初經驗を語る	(三)
新園寄せがき帖(その一)	倉橋惣三(四)
新入園兒の保育衛生	廣瀬興(五)
金太郎のおもちや	及川ふみ(六)
遊戯 やねの上の雀	土川五郎(六)
講話「いろくの子ども」Ⅲ	倉橋惣三(六)
望月神戸幼稚園長の退職	(七)
たより	(七)

倉橋先生
監修

保 育 叢 書

各冊 金二圓
送料 金二圓

本書は幼稚園や託児所の保母先生方には勿論、家庭のお母様方にも読んで頂くやう、幼児教育界の權威者によつて、極めて興味あり平明な敘述を以て幼児保育を實際的に指導し、加ふるに夥多の原色版寫真版繪畫版等を以て一見會得し得るやう懇切な解説が施されてゐます。幼児保育に關係あり關心せらるゝ方々の一讀をお奨め致します。

第 一 編 保 育 叢 書

人形芝居脚本

幼児のため

菊池ふじの先生共著
徳久孝子先生共著

脚本十種、此の人形芝居は常に幼児に新しい歡喜を以て迎へられる。巻頭寫真オフセット七度刷舞臺裝置、及び同じく各種人形を收め、ポプリン布厚表紙本綴、體裁端洒。

第 二 編 保 育 叢 書

自然物おもちゃ

膳 眞規子先生著

幼児保育上大切なお細工に於て、あらゆる自然物を利用し巧みに種々の形態を模せしむ。その數實に四百八十有餘種、敘説亦簡明、寫真繪畫頗る多數。

及川ふみ先生著

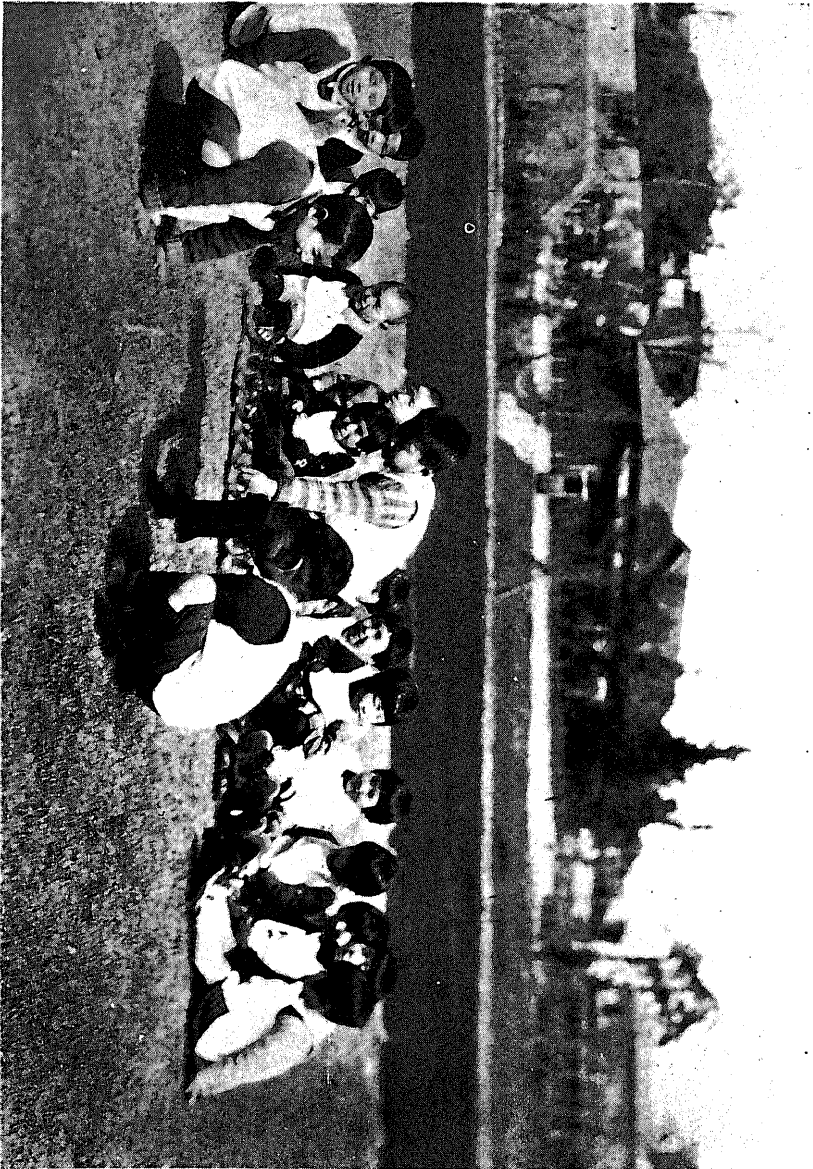
著者は東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て實際指導し來たれるものを各學期各月に配當し之を統整し、以て各幼稚園託児所等に於ける最も緊要なる手技製作の指導保育を遺憾なからしむるやう、直接手をとりにて導くが如く、親切に敘述す。

第 三 編 保 育 叢 書

幼稚園の手技製作

株式會社 丸 貝 館

本店 東京 神田 今小川路 電話九三二八七番
支店 大阪 東區 平野三町 電話一六三八番



幼 兒 の 教 育

昭 和 八 年 四 月

眞 實

教育の學説は種々であらう。その原理を實現し得る設備の可能性も一つであるまい。保育者の性質も十人十色、その實際手法も百人百様であつてよい。是れ等に斯うでなければならぬといふ絶對的なものはない。

たゞ、如何なる幼稚園にも、如何なる保育法にも、如何なる性質傾向の保育者にも同一に缺くここの許されない絶對のものは眞實である。保育者その人の性格の眞實性である。

幼児を保育するに才能も必要である。巧妙もあつたに越したことはない。しかも、あの純眞なる小さき魂が、人生最初に先生を呼び慕ふところの人が、眞實性に於て一點缺くる人であつた時、幼児の性格發達上の不幸な損失は、如何に怖るべきことであらう。

眞實のみが、人の友たるこぎが出来る。況んや、人の師たるこぎに於てをや。それは幼きものに對しても同様であるといふよりも、幼きものなるが故にこそ殊にそうである。

勤勞家庭の幼児の保育

東京府社會課

朝原梅 一

どんな貧しい家庭の幼児にも月日は同じ様に過ぎ去り、長い楽しい保育時代も終了を告げまして、小學校に入學することになり、これに引き換へに、託児所には新しい、まだ家庭では共同生活をやる様に訓練されて居ない、幼い幼児達が入所して参ります。こうして託児所に來るのは楽しい生活に入るのではありませんが、また一面から考へますと、父母の膝下で自由自在に我儘を通して、お小使錢の如きも、一日幾度も一錢、一錢させびつて、だゞをこねては母を困らせ、而も、不衛生的なもので、功妙な賣手の言葉と、色彩の美しさにつられて、不規則な買ひ食ひをしたものが遽に、規律のある託児所の生活に入つて、何から何まで指圖されるのでありますから、幼児に對しては相當に苦痛なまた、窮屈なことであらふと思はれます。こうした幼児の氣分を充分に考慮してやりますと、初日から終日保育と云ふことは可哀そうで出來ない相談と思はれますので、これを緩和するために初日は、おやつも午前一度、與へまして、數日は午前中一、二時間で歸宅させ、段々に保育の時間を引き延ばして、數日を経て三時頃に午後のおやつを與へなきて、終日保育に慣して行くことにすることが、こうした子供達の保育に適した方法であると思ひます。

一、保育衛生の躑け方

さて新入の幼児は何は置いても注意しなければならぬことは衛生的な躑けであります。幼稚園の保育には園醫令があつて一應規定してありますが、託児所にはこれがありませんから、經營者の頭一つで衛生問題を考へなければなりません。その(一)は衣類でありまして、母親の手の廻らぬ幼児になりますと、随分汚れた衣類もあります。これを清潔にする様に

母親を指導してやらなければなりません。そして幼児に依りましては、時節はづれの着物を使用して居るものもあり、それがやつこ寒さを凌ぐ位なものもある様であります。従つて、パンツなどもなければ、足袋もない、上草履もない幼児が澤山居りますから、この子供等にも他の子供共略ぼ同様な服装が出来る様に骨を折つてやらなければなりません。それから頭髪の整理をしてやるか、食事時にはお手を洗はせるか、鼻水の出をかませるか、顔を洗はせるか、總て衛生上必要な賡けを加へなければなりません。

二、自由に遊ばせる設備

勤勞の家庭は大概家が小さいから、幼児等は自由に飛んだり跳ねたりして遊ぶ習慣をつけられて居りません。飛んだり跳ねたりすることは、戸外に於てのみであります。託児所に参りますと、室内で自由に騒いで遊ぶことが出来るし、總て延びんとして遊べるのは楽しい出来事の一つであります。それに唯廣々とした所で遊ぶばかりでなく、時には遊び道具を以て仲間と共に遊ぶことが出来ますから、これを色々に使用して楽しさを感じる様であります。これは嘗て私の關係した託児所での経験であります。ヒル氏の積木を作つて與へましたが、その最初の遊びに使用したのは板並べ的に並べまして、夏でありましたから、その上に毛布を敷いて二三人がごろごろ寝るのに使用いたしました。言葉を換へて申しますと、積木の平面的使用でも申して好いと思ひます。その後、尾久町は荒川に副ふて居りまして、ボートの競技が始まるので、盛にその練習をされて居る學生などを見た幼児達は、長椅子を二個並べて、それに積木を横にしてボートの形を致しまして、横にした積木に腰をかけ、各々また他の積木一本をオールの如く使用して、ボート漕ぎを真似た遊びを始め、毎日楽しく同じことを繰り返して遊んで居りましたが、その年の秋頃になりますと、やつこ家を作つてその中に一人すはつて、お地藏様の様な遊びをして居りました。その時に私どもは幼児に遊び道具を與へて置けば種々な遊びに之を進展させて、平面から立體に、靜から動に活用して行くものだ云ふことを知ることが出来ました。

三、多種の備品の必要

幼児を楽しく遊ばせるために經濟が許すなら、勤勞家庭の幼児を保育するためには種々な遊具を與へるが必要であることは多く論ずる必要はないと思ひます。種々設備品を使用して遊ぶことは、遊ぶにも楽しいことですが、また一方には貧しい家庭には、器物の数が極めて僅少でありますために、物の名稱を知ることがすくなく、その利用も知らないことが多いのでありますが、中流以上の家庭の幼児が何等の心配もなく種々な物品を使用して、その名稱を覺へて居りますから、こうした二種の幼ない子供が小學校の兒童になつても、同じ年齢の兒童であり乍ら、多くの言葉と、その内容を理解する點に置きまして、非常に相違のあることは明に觀察することが出来ると思ひます。それでありますから、理想的に申しますと、少なくとも、小學校の教科書にある物品は何としかしてこれを容易に知ることの出来る程度に託兒所の設備なきをしてやることは必要なことでありましてこうすることが本當に知識供給の均等を計ることであり、家庭教育の補ひとなる事と思はれます。

四、間食の整理としての保育

幼児の時代には家に居りさへすれば何か食べ物を求めるは自然であります。そうした食慾をそのままにして置くことは、許されないことで、段々に間食の度數を減じて行かなければなりません。その最も自然的な整理の方法は、慾望の轉換であります。慾望を満足させやうとするのを、これを無理に禁止することは慾望の盛な時代の幼児に對して最も慘酷なことであります。これを自然的に易々轉換させるためには、甲の慾望に換へるに乙の慾望を満足させて甲を忘れさせる方法に依らなければなりません。即ちぼんやりまして居れば食物が愾しくなる時間に、楽しく遊戯をさせるか、面白いお話を聞かせて貰ふか、折紙をするか、云ふ様な遊びに依りまして食慾を忘れて遊ぶか云ふ所に最も自然的な慾望の

轉換が行はれることになるのであります。でありますから、託児所に於て、楽しく保育されることのために、(1)自由な買ひ食ひの癖から、回数減する様になり、(2)品質の選擇をなす様になり、(3)また街頭で販賣して居るものに不衛生的なものがあることを教へられて、衛生的なものを選ぶ様になつて來るのであります。序に申上げます、彼等幼児の中には不幸にも、晝食が著しく、不良であるとか、榮養價のないものであるとか、またはこれを持參しないものがあるとか云ふやうなことを認められました際には、これに適した榮養食をも給與されなければなりません。

五、簡易治療の實施

本當に託児所に來る資格のある様に思はれる多くの幼児を見ます、先づ(1)眼につくものは眼疾であります。眼が赤く血膜炎を起して、眼やにを出し、甚だしいのはトラホームにかゝつて居るのを放つて居るものもあり、このまゝでなければ失眼するやうなものもあります、こうした眼疾をなんぞか治療に取りかゝらなければすまない云ふ状態のものもあります。(2)ある幼児は慢性の中耳炎になつて、絶え間なく、膿の流出して居るものもあり、(3)また慢性の鼻カタルを起して、鼻水ばかり流して居るものもあれば、(4)濕疹が出て見るからに氣持の悪い様なものもあれば、(5)顔面蒼白になつて、蛔蟲か十二指腸に冒されて居る様なものもある様であります、是等を小兒科の醫師にかけて、何ぞか手を下さなければ放つて置けない云ふ状態のものも相當見受けられますから、こうした幼児に醫師の指導によりまして簡易治療を加へる云ふことは、勤勞家庭の幼児の保育としてなさねばならぬ保育の一つであります。

六、母の會の使命

勤勞家庭の幼児の保育の眞の目的は、託児所に於て保育するだけではその責任を充分果すことが出来ません。幸にも勤勞家庭のお母さんは必ず幼児を託するために託児所に朝夕通ひますから、保母はこうした機會を逸しない様に、母と密接

なる關係を生じて、(1)短い時間の間に於ても、能く母親の心をこらへて、家庭に於ける幼児の保育に對する指導を與へなければなりません。(2)多くの家庭の人達は幼児の生活に於て最も必要な本能の發動の如きも、成人の理想から考へて、これを抑壓しやうとする傾向がありますが、こうした幼児の本能的な活動にも、好くこれを觀察いたしますと、寧ろ助長しなければならぬ行動も澤山あるのでありますから、これを母親に好く理解せしめて、無暗に叱つて之を禁止しない様に指示しなければなりません。(3)父母ともに就勞する家庭では幼児の身の廻りに就きましても不行届き勝ちではあります、これを何から何迄、託兒所の保姆が面倒を見てやること云ふことが必ずしも上策ではありません。(4)家庭の人達に適した注意を與へまして、母親が自らこれを行ふやうになればこれに越したことはありません。こうした自治生活をさせるためには、(5)常に母の會に出席せしめて、母親の訓練を行はなければなりません。(6)その訓練には宗教心の涵養、實踐道德的訓練、貯蓄の實際的勵行、育兒衛生上の知識の獲得、美しい社交性の修得、等の内容を充實しなければなりません。

七、隣保の生活向上へ

以上述べました様に勤勞家庭の幼兒並に母親の教育を行はふごいたしますのが託兒所保育の特色でありまして、こうした母と子供に對する生活指導が、行きこゞりますと、この人達の生活は近隣の生活者へ及ぶ影響が著しい力を持つて居りますから、次から次へに、傳播して、遂にその附近の人々の家庭の生活を向上させることになるのであります。此點から考へまして、此節託兒所の母の會等に、遠方から多くの車代を費して舞踊等のために出演される様なこともありまして誠に結構ではあるが、今一つ私の希望を申しますれば、附近の人達が集つて、少しはまづくても、共同して餘興が演ぜられるなら近隣のものがお互に識り會つて、面白く社交が出來て、共に向上發展しやうとするものゝためにぎんなにか有效であらふと思ひます。今後の母の會の發展もこの様に指導して行きたいものであります。(昭和八、三、十八日)

乳幼児愛護週間について

中央社會事業協會 高 島 巖

大正十五年十二月、財團法人中央社會事業協會は、東京に於て、第一回全國兒童保護事業會議を開催した。

この會議は、我國に於ける最初の兒童保護事業關係の會議で、各府縣は勿論、遠く朝鮮、臺灣より多數の兒童保護従事員及び該事業關係者が參集し、從來問題視されて居つた兒童に關する各種の問題について、熱心討議攻究せられたのであつた。その結果、貴重なる收穫を得て、我國兒童保護事業の發達上多大の貢獻をもたらしたことは、云ふ迄もないが、その席上、最も重要にして根本的なる問題として、出席者一同の論議の中心となつたのは、我國に於ける乳幼児死亡率の問題であつた。

*

我國は、之を諸外國に比較して、婦人が著しく家庭的であるといふ特徴を有してゐる。この特徴が、子供の養育上に及ぼされ、諸外國の母親たちが、多くその子女の養育を他人の手に委ねてゐるに反して、母親自らがその兒を養育するといふ良習慣が、古くより廣く行互つてゐるのである。斯くの如き實情を見て外國人は、

「日本は子供の樂園である」

とさへ賞讃してゐるのであるが、この樂園日本に於いて、矛盾を稱すべきか將又皮肉をいふべきか、我國に於ける乳兒死亡率は、歐米各國のそれに比較して、はるかに高率を示して居るのである。

試みに、我國に於ける一ヶ年間の乳幼児の死亡數を見るならば、五歳未滿の幼児が凡そ五十萬人死亡し、就中、最も多

きは一歳未満の乳兒で、その數は三十萬に達するといふ誠に悲しむべき實狀を示して居るのである。

今、これを他の諸文明國の狀況に比較して見るならば、次の表に示さるゝ如く、我國の狀態の甚だ劣等に位してゐるこ

各國の乳兒死亡率(出生百に付一歳未満者の死亡)

年	次		獨逸		和蘭	
	日本	英克蘭及威爾斯	佛蘭西	獨逸	和蘭	和蘭
昭和二年(一九二七年)	一四・二	七・〇	八・三	九・七	五・九	
同 三年(一九二八年)	一三・八	六・五	九・一	八・九	五・二	
同 四年(一九二九年)	一四・二	七・四	九・五	九・六	五・九	
同 五年(一九三〇年)	一二・四	六・〇	七・八	八・四	五・一	
同 六年(一九三一年)	一三・二	六・六	七・六	八・三	五・〇	

へられたのである。

*

斯くて、會議出席者の熱心なる研討の結果、その主なる原因として擧げられたものは、要するに、

- 一、妊産婦衛生の不完全なること
- 二、母親の體質の虚弱なること
- 三、育兒知識の不充分なること

更に第四として、貧困なるが故に子供に對して充分養育の手を盡すことの出來ないものが多いといふことであつた。

即ち、出生後五日以内に死亡するものが、一ケ年に死亡する乳兒總數の約二割、一ヶ月以内に死亡するものが約五割に相當するといふ事實は、妊産婦衛生の不完全なることを裏書するものであり、又乳兒の死亡原因中、左表によつて示さる

る如く、畸形兒及び先天性弱質がその最高位を占めてゐるこいふことは、取りも直さず、母親の體質の虛弱なることを示してゐるのである。更に、同表に於て示さるゝ死因は、下痢及び腸炎、肺炎、氣管枝炎等の順序になつてゐるが、これらは明かに育兒知識の不充分なることを物語るものであると同時に、貧困なるが故に、養育上の手を盡すことが出来ないこいふことを證するものである。

斯くの如く考慮を巡らす時、我國の美風である云はれてゐる兒童愛護の傳統は、實は何等近代科學に基礎づけられたものではなくして、徒らに盲目的な愛撫にすぎざるものであつて、誠に遺憾の極みである云はねばならない。

茲に於いてか、この高率の乳兒死亡率を如何にして低減し、日本をして名實共に子供の樂園たらしむるこいふ出来るか、その具體的方策を講究し、その結果を實際に進めて行くこいに全力を傾ける事が、會議出席者の等しく重大責務であるこいふ痛感した所であつた。

主なる原因別乳兒死亡(昭和五年)

實數	全國人口十萬以上の市	
	生産千に付	總乳兒死亡千に付
畸形及先天性弱質	六二・一〇三	二四・〇〇六
下痢及腸炎	五八・二五〇	二二・五・一六
肺炎及氣管枝肺炎	四〇・九七二	一五・八・三七
腦膜炎	一四・七七六	五・七・一二
乳兒に固有の疾患	一二・九九九	五・〇・二五
急性氣管枝炎	九・六五四	三・七・三二
脚氣	七・八九七	三・〇・五三
百日咳	四・一一五	一・五・九一
微毒	三・五〇七	一・三・五六
腎臟炎	二・四八四	九・六・〇〇
外因死	一・九八三	七・六・七
麻疹	一・八七二	七・二・四
流行性感	一・四三四	五・五・四
腹膜炎	一・二二五	四・七・四
胃の疾患	一・二二二	四・七・二
心臟の器質的疾患	一・二〇三	四・六・五
	〇・五八	一・九・一
	〇・五九	〇・一・九
	〇・五九	〇・四・〇
	〇・六九	〇・六・〇
	〇・九〇	一・〇・七
	〇・九五	二・三・一
	一・一九	〇・八・七
	一・六八	一・〇・六
	一・九七	一・九・六
	三・七九	二・八・四
	四・六三	七・六・五
	六・二三	七・四・五
	七・〇九	二・八・一
	六・二三	六・四・九
	五・〇・二五	二・四・〇・八
	五・七・一二	二・四・〇・八
	一・七・七八	五・五・四九
	一・七・七八	五・五・四九
	七・四五	二・四・〇・八
	七・四五	二・四・〇・八
	二・〇・二四	六・五・四一
	七・五・一	二・四・二七
	五・二・〇	一・六・八一
	二・八一	九・〇・八
	二・三一	七・四・七
	二・八二	九・一・一
	一・五・八	五・一・一
	一・〇・五	三・三・九
	五・一	一・六・五
	一・九・一	六・一・七

今日の幼児は、やがては次の時代の國民として一家を支へ、一國の中堅となり、家運の隆盛、國運の發展を雙肩に荷ふものであることを考へるならば、乳幼児の健全なる發育は、單に一家の幸福のためのみならず、國家としても、最も重要な問題であらねばならぬ。

故に歐米の諸國に於ては、國家としても國民としても、子供の保護に非常なる努力を致し、施設を備へてゐるのである。

獨逸のカイザリン・オーグスタ・ハウスの如き、澳國のオーストリア國立母性乳兒保健所の如き、又英國のカーチギー記念乳兒保護協會の如き、何れも、一國の母性保護、兒童保護のセンターとして、母性及び兒童の保健衛生に關する調査研究、母性及び兒童の保護事業に従事する職員養成、國民に對する育兒思想の普及等に全力を注ぎ、更にそれ等の保護施設の擴充に努めてゐるのである。

而して、これ等諸外國に於ける兒童保護施設中、最も一般的に普及してゐるものは、母性相談所とも稱すべきものである。これは、兒童の保護に關する一切の相談に應じ、且つ必要な指導を與へることは勿論、訪問婦をして妊産婦又は乳兒のある家庭を訪問せしめ、懇切なる指導注意を與へ、且つ母親及び婦女子に對して、育兒知識を得せしむるに務め、必要に應じて貧困家庭の母性及び兒童に對しては、種々の保護の途を講ずるものである。

又ニュージーランドに於ては、一九三二年即ち昭和六年の報告によれば、全乳兒の六割七分が、この施設によつて保護を受けて居り、出生兒の六割七分が、母親相談所で取扱はれてゐることを云ふことは、この國が如何に、子供の保護に熱心であるかを示すものであり、同時に如何にこの母性相談兒童保護所の働きが、子供の死亡を少くするに役立つものであるかを物語るものであると考へる。

又英國に於いても、この種の施設が著しい効果を擧げて居るのであつて、一例を擧げるならば、一九〇六年に於ける母性相談兒童保健所の數は僅かに二つであり、當時の乳兒死亡率は、出生一〇〇につき一二・三人であつたのが、一九二〇年

には、その數は一躍して一五七四ヶ所に増加し、死亡率は之を反比例して八人に低下してゐるのである。

更に一九二八年には、その施設數は一層増大擴張せられ、二四二一ヶ所となり、死亡率は實に、一〇〇につき六・五人に減少したといふことは、誠に母性並に兒童保護施設が如何に効果を擧げてゐるかを示す適例であるに信するのである。

歐米諸國に於ける兒童の死亡率の低下は、固より一般文化の發達殊に醫學の進歩に因ることは多大であるが、その原因の一つは、やはりこれら統制ある母性並に乳幼児に關する保護施設の發達したること、一般國民の母性並に乳幼児に對する保護、衛生に關する知識の向上にあること云はねばならぬ。茲に於いて、各國の經驗に鑑み、且つは我國乳兒死亡の原因を相綜合して考慮するならば、結局、我國の乳兒の死亡率を低める方策についても、それは母性並に兒童の保健衛生に關する思想の普及及びその保護施設の發達に俟たねばならぬといふことに歸著することは、既に、第一回兒童保護事業會議に於ける研究の結果としても、満場一致首肯するところであつたのである。

*

この意味に於いて、同會議は、この目的達成の一具體案として、毎年一回五月五日の端午の節句を期して、全国的に乳幼兒愛護デーを開催し、一般國民の覺醒を求めんとするに決したのであつて、第一回全國乳幼兒愛護デーを、その翌年即ち昭和二年五月五日、中央社會事業協會主唱の下に各廳道府縣相呼應して一齊に開催したのである。

爾來回を重ねることを六回、しかも昭和五年に開催せる第二回全國兒童保護事業會議に於いては、本運動は一日を以ては不充分である、一週間に延長して一層これが趣旨を存するところを廣く知らしむべきことを決議し、昭和六年よりは、これを全國乳幼兒愛護週間と改稱し、今日に及んだのである。

この間、協力一致、全國民に向つて、妊産婦の衛生知識と育兒知識の啓發について注意を喚起し、一方母性並に兒童の保護施設を普及發達せしむることに努力を續けて來たのであるが、本運動開催當時より今日に至るまで、乳兒死亡率は

毎年低下の現況にあることは、誠に欣喜に堪えないところであつて、即ち昭和二年に於ける我國の乳兒死亡率は出生一〇〇人につき一四・二人であつたが、昭和六年には一三・二人に低下してゐるのであつて、これは、單に獨り本運動の效果のみは斷じ得られないにしても、そのために、國民の中に漸次、眞の兒童愛護の精神が普及せられて行きつゝあることの結果であることは云ふまでもないのである。

然し乍ら過去五年間の實績は、未だ歐米諸國に於けるこの種運動に比較して、及ばざることは、はるかに遠いものがある。今後一層聲を大にして、その目的の達成のため努力せねばならぬのである。

本年は、別項の如き要項に従つてその第七回目を行ふのであるが、その例年に比較して注意すべき點は、從來比較的重要視されてゐなかつた工場鑛山に勞働するものの婦人及び乳幼兒の保護に關するものである。

當局の調査によれば、これらの婦人の乳兒死亡率は一〇〇に對して二〇といふ高率を示してゐるのであつて、これらの原因は、云ふまでもなく、彼等婦人達の過勞、環境の不健康、及び工場鑛山に於ける母性並に乳幼兒保護施設の不完全にあるのであつて、時節柄最も寒心に堪へないところのものであるからである。

要は、本運動は、人道的至情、愛國の精神を基礎とする一大國民運動であるが故に、單に一時のお祭り騒ぎに終始すべきものではない。國民全體がこの運動の趣旨を諒解し、更に進んで、お互ひに、平素に於ける家庭生活の上に、これを織込んでこそ、その目的を達成し得るものであることを信じて疑はぬものである。

第七回全國乳幼兒愛護週間實施要項

一、名稱 第七回全國乳幼兒愛護週間

二、目的 乳幼兒愛護に關する知識の普及並に乳幼兒保護施設の擴充發達を圖るを以て目的とす

三、期間 昭和八年五月五日を中心としてその前後を通じて一週間とす但し地方の狀況により適當に伸縮することを得尙その中日

を「母の會」として計畫實施すること

四、主 唱 財團法人中央社會事業協會

五、後 援 內務省・文部省

中央に於ける實施事項

一、妊産婦及び乳幼児保育心得(パンフレット)の作成頒布

右は各地産婆會、市町村役場を通じて妊産婦に普く配布する外ラヂオ講座、講習會、講演會用テキストとして一般に利用すること

二、健康診査票の作成頒布

三、第六回全國乳幼児愛護週間に於ける健康診査票の集計發表

四、妊産婦及び乳幼児保護並に當該施設に關する資料の作成發表

五、乳幼児愛護歌の印刷頒布

六、週間宣傳用ポスターの圖案募集

七、週間宣傳用ポスターの作成頒布

八、各道府縣知事、朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官、關東長官及び各地方社會事業協會長に對し週間實施に付盡力方を依頼すること

九、內務省(社會局、衛生局)に對し週間實施の趣旨に賛し各道府縣知事に對し夫々その管下に於ける右週間實施につき盡力方相成様通牒を依頼すること

一〇、日本赤十字社、愛國婦人會、濟生會、大日本聯合青年團、日本醫師會、日本齒科醫師會、日本産婆會、萬國婦人子供博覽會に對し

週間實施につき協力援助方を依頼すること

一一、乳幼児愛護に關するラヂオ講座(一週間繼續)につき中央放送局へ交渉すること

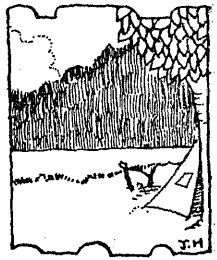
一二、週間中一タを「乳幼児の夕」としてプログラム編成方につき中央放送局へ交渉すること

一三、新聞社、雜誌社に依頼して乳幼児愛護に關する記事を掲載し週間實施の趣旨の宣傳を爲すこと

一四、工場、鑛山に於ける妊産婦保護、乳幼児保護促進のため大藏省、逓信省、鐵道省、陸軍省、海軍省、産業福利協會、全國産業團體聯合會に對し協力援助方を求むること

地方に於ける實施事項

- 一、妊産婦及び乳幼児保育心得を産婆會、市町村役場等に於いて普く妊産婦に行き互るやう配布すること
- 二、幼稚園、託兒所、學校、教會、寺院、神社、劇場、寄席、活動寫真館、浴場その他多人數集合する場所を利用して乳幼児愛護に関する知識の普及並に當該施設利用に關し宣傳を爲すこと(講話又はポスター揭示、パンフレット、リーフレットの配布等に依る)
- 三、乳幼児愛護に關する知識普及のため講演會、講習會、活動寫真會、母の會その他展覽會等を開くこと
- 四、各新聞社、雜誌社に依頼して乳幼児愛護に關する記事を掲載し週間實施の趣旨の宣傳を爲すこと
- 五、乳幼児愛護に關しラヂオの放送を爲すこと
- 六、乳幼児審査會、健康相談會等を催すこと
- 七、育兒上著しき弊害ありと認むべき地方的風習を指摘しその改善を圖ること
- 八、各交通機關當局に依頼し汽車、汽船又は自動車に週間宣傳のビラ、ポスター、旗等を掲ぐることに
- 九、各パートメントストアに依頼して週間實施の宣傳を爲すこと
- 一〇、乳幼児愛護に關するパンフレット、リーフレット、母親讀本、育兒カレンダー等の作成頒布
 - 一一、産院、託兒所、乳兒院、牛乳配給所(調乳所)健康相談所、習性相談所、訪問婦その他妊産婦及び乳幼児保護施設の擴充發達を圖ること
 - 一二、貧困なる妊産婦及び乳幼児の救護に盡力すること
 - 一三、地方の事情に應じ牛乳資金の募集を爲すこと
 - 一四、主催團體は成可く各道府縣並びに同社會事業協會、樺太廳、臺灣社會事業協會、朝鮮社會事業協會、滿洲社會事業協會等とすること
 - 一五、參加團體は成可く日本赤十字社、愛國婦人會各支部、濟生會、各地に於ける聯合婦人會、女子青年團、醫師會、齒科醫師會、産婆會、その他各種社會事業團體等とすること



五月の観察

東京女高師附屬小學校主事

堀

七

藏

一、五月観察すべきもの

五月に幼児をして観察せしむべき材料は大變に多い。植物ではつゞじでもきりの花でもまたたんぽぽにはなしやうぶ、或はかたばみのやうな小さな花でも面白いものが多い。動物ではかへる、かめ、きんぎよ、こひ、ふな、なぎがある。またつばめでもすいめでも更にはこりでもはこりでも兒童には面白い。また地方によつては、そらまめでも桑でも或は竹でも松でもよい観察の材料となる。

二、觀念検査

三月十七日東京女子高等師範學校保育實習科試験問題として左記の植物に關する問題を提出し、その答案を検するに實に面白い事實がある。

あさがほ、あぶらな、うめ、いね、きうり、きく、きり

くり、くは、こんぶ、さくら、そらまめ、たけ、たんぽぽ、つゞじ、つばき、なす、はなしやうぶ、まつ、まつたけ、むぎ、もみぢ、もゝ、わらび

右の二十四種の植物中、左記の條件に合つたものをそれぞれ選び出しそのところに列擧せよ

- 一、雄花、雌花を生ずるもの
- 二、春花を開くもの
- 三、胞子で繁殖するもの
- 四、一年生の植物
- 五、果實又は種子が風で散布するもの
- 六、地下莖で繁殖するもの
- 七、禾本科植物
- 八、果實又は種子を食用とするもの
- 九、常綠木

試みに各自答案を書き、後に採點して見るがよい。正しきものは一つにつき二點、誤れるものを上げたるときには一點引きて採點するならば如何なる得點となるか。滿點ならば百點となる。各自の有する觀念の明白度を檢するには面白い試みであらう。

三、かへる

一、おたまじやくしがだん／＼に成長してかへるゝなる有様を觀察させることは面白い。更にかへるのミビ方おぎ方を觀察させ、幼児に眞似をさせるミ一層面白い遊戯となる。かへるのミビでもかへるおよぎでも皆かへるの運動法を眞似たものである。かへるのからだも面白い。口でも眼でも亦耳でも、更に脚でもその趾でもまたかへるのゝるゝころでも觀察すればするほゞ面白いものである。かへるつゝりも面白い遊でもあるが、女兒には一寸無氣味であらう。

二、かへるには頭の後方に大きな胸がある。胸には前後四本の脚がある。後脚は前脚よりも長い。前脚には四つの趾があり、後脚には五つの趾がある。そして後脚の趾の間には蹠がある。かへるは陸上で後脚を屈め前脚を伸ばして

坐る。四本の脚を代る／＼動かしてそろ／＼ミ歩む。跳ぶときは屈めた後脚を急に伸ばしてミビ、前脚でつゝばるのである。水中に入るミ後脚を動かし、蹠で水を後方に押してよく泳ぐ。かへるの頭には甚だ大きな口があつて、廣く開くこゝが出来る。口の中には下顎の前端より後に向ひて生ぜる舌がある。かへるが蟲を捕へるには急に口を開いて舌を出し、その先に蟲を粘著せしめ、舌を翻して口の中にをさめ、後に口を閉ぢる。その働きが極めて速であるから恰も蟲を吸ひこむやうに見えるのである。

かへるは頭の左右に二つの突出た大きな眼がある。かへるの眼ミ人の眼ミさうちがふか。眼の後方になつて圓く皮の張つた所が耳である。かへるの耳ミ人の耳ミさうちがふか。頭の前端に近い所にある二つの小さい孔は鼻の孔である。おたまじやくしの時代には鰓で呼吸するが、かへるになるミ肺で空氣を呼吸する。のぎのミころを膨らして空氣を鼻孔から吸入するのである。かへるは空氣を呼吸するが、皮膚が常に濕れてゐて皮膚呼吸をするのである。かへるにはのぎのさまがへる、つちがへる、ひきがへる、

あまがへる、あかがへる、かしかがへる等いろいろある。かへるの雄には口の後下部に皮膚の薄く囊状をなせる所がある。鳴くときこれを膨らして聲を大きくする。しかしひきがへるにはこの囊状がない。ひきがへるはいぼかへる、きもいふ。頭の上側の左右より白き悪臭ある液を出し、これによつて敵を防ぐ。あまがへるの脚の趾には吸盤がある。

四、つづじ

一、つづじは山野に生じその種類が多い。又庭園に栽培せられて多くの園藝變種が出来てゐる。花瓣の色には赤紫、白、樺等いろいろあるが、赤が最も普通である。

もちつづじは淡紫色の大きな花を開き、萼は長大にして著しく粘つてゐる。

りうきうつづじは庭園に栽培せられ、白い大きな花を開き、雄蕊が十本ある。

やまつづじは赤い花を開き、雄蕊は五本である。またきりしまは赤い花を開くものが普通で、これも雄蕊は五本である。れんげつづじは樺色の花を開き、雄蕊が五本である。さつきは後れて六月頃開花する。赤色の花を開くものが普

通で、雄蕊は五本である。

二、つづじは多く五月頃花が開く。花は柄で細き枝の先に著き、多少横に向つて開く。萼は五枚からなる。花瓣は大きく美しくして五枚ある。その本の方は相合して筒形になつてゐる。上にある花瓣の内面には斑點がある。

雄蕊は種類によつて五本又は十本ある。細長くして先は少しく上方に向ひ、橢圓形の囊を著け、囊の先には二つの孔があつて、これより黄色の粉を出す。その粉が少しく現はれたとき、紙片の端につけて靜かに引けば粉が極めて細き糸に綴られて囊の中から出るものである。雌蕊は一本あつて雄蕊よりも長く、その先は稍々太くして少しく上方に向ひ本は太く膨れてゐる。

つづじの花瓣が筒形になり、たゞまつた所には蜜がある。蝶が飛んで来て花に止まり、蜜を吸ふものである。このとき雄蕊の出せる粉が蟲に著いて運ばれるものである。つづじは常緑灌木である。

三、つづじの花では幼児に觀察させることが多い。花瓣の色、形、雄蕊の數、萼片の數、それからつづじの葉もつばきの葉なきに比べさせるがよい。

五、きりの花

一、きりの花はつゝいじの花によく比べて観察さる。色でも形でも、又雄蕊、雌蕊でもつゝいじに比べて見るに面白い。きりの葉も大きな物で表裏ミ比べ撫でさせて見るがよい。

二、きりは五月頃花を開く。花は上方に直立せる小さき枝に多く集りつき、花の本には柄がある。

きりの花は斜に下の方に向つて開く。萼は細かき毛にて被はれ、茶色で厚く堅く、その先が五つに分れてゐる。花瓣は淡紫色で五枚ある。その本は相合して大きく、長き筒形をなし、先のみ相離れて二枚は上方、三枚は下方に向つてゐる。つゝいじの花は正に反対になつてゐる。きりの花の筒形の所を開いて見るに、四本の雄蕊と一本の雌蕊とある。また筒形の所に蜜が溜つてゐる。きりの花は美しくて著しい香がある。それで遠方より蟲を誘ふ。きりの花に集る蟲はつゝいじの花に集る蟲とはちがふものである。みんな蟲が来るか。きりの花が散つた後には萼は雌蕊と共に残つて果實に成長する。

三、きりは大木となる。幹は上部より枝を分ち、幹、枝の皮は鼠色である。太い幹枝の皮は縦に割目を生じて粗い。細い枝の皮は滑にしてその所々に小さい橢圓形の點がある。又葉の落ちた痕が大きく圓く残つてゐる。きりの幹、枝は成長が速で、その木材は甚だ軽いものである。

きりは冬の間葉がなく、春暖くなつて後若枝を伸し葉を生ずる。葉は若枝の所々に二枚づゝ相對して著き、大きく圓くして先が尖り又左右に二つづゝ稍々尖れる所がある。葉の本は深く切込み、こゝに連なつて長い柄がある。葉の脈は著しく裏面に膨れ出てゐる。その中で葉の本より葉の尖れる所に向つてゐる。五本は殊に大である。葉には細かい一面に毛がある。

六、そらまめ又は藤

一、そらまめでなくとも藤の花でもスウェーデンの花でもよい。そらまめでは花は左程綺麗でないが、果實も種子も、また葉も観察させたがよい。藤が校庭にあれば必ず、その蕾から房に伸び、花が咲き、蟲が来てゐる有様をよく観察させるがよい。若葉が伸びる有様もまた果實の成熟する

までをも時々観察させるがよい。そらまめでも藤の種子でも之を集めて數生活の材料となすがよい。豆を竝べていろいろの形をこしらへて遊ばせることもよい。

二、そらまめの莖はその切口を見るに方形で中が空である。葉は互ひ違ひに著き、冬一本の軸の兩側に竝べる幾枚かの橢圓形の綠色のものから成る。即ち複葉である。藤の葉はぎんなになつてゐるか。そらまめの葉の軸が其莖に著ける所には更に二枚の小さい綠色のものがある。之が所謂托葉である。此托葉の裏面には一つづゝ黒き點がある。此點より蜜を出してゐるので蟻が來てなめてゐる事がある。

三、そらまめの花は葉が莖に著いてゐる所の直ぐ上に幾つかづゝ著き、横に向いて開き、その形が稍々蝶に似てゐる。花の本には短い柄がある。

萼は綠色で小さく、その本は筒形をなし、先は五つに分れてゐる。花瓣は白くして五枚ある。その中で上の一枚(旗瓣)は最も大きくして先の部分は上方に曲つて直立し、その面に黒い細線がある。次に二枚(翼瓣)は稍々小さくして左右に竝び、その面の一つづゝ大きな黒い紋がある。下の二枚(龍骨瓣)は最も小さく、左右相接して舟形をなし、中

に雄蕊と雌蕊とを包むものである。

若し鉛筆の先を花の中央にさし入れて下の花瓣を押下けると、舟形をなせる花瓣へ先の隙間から雌蕊の先及び黄色の粉が出てくる。それで花瓣を除いて雄蕊と雌蕊とを検するに、雄蕊は十本あつて各の先の小さい囊から黄色の粉を出すものである。所が雄蕊の中で上の一本は他と離れてゐるが、他の九本はその本の部分が相合して溝形をなし一本の雌蕊を圍んでゐる。そして雌蕊の先は上の方に曲つてゐるし、雌蕊八本は綠色で太く長い。この子房の内部は一室をなし、室の中には幾つかの小さい粒があつて一列に竝び、室の中の上側に著いてゐる。

そらまめの花では雌蕊の本の内側に蜜がある。それで蟲が飛んで來て花に止つて蜜を吸はふにすぎに、舟形の花瓣は押下けられるから雌蕊の先及び雄蕊の出せる粉が外に現はれ、この粉が蟲につき、又既に蟲に著いてゐた粉は雌蕊の先に著くのである。即ち花粉が蟲によつて雌蕊から雌蕊につくので、そらまめは所謂蟲媒花である。授粉の後雌蕊の本、即ち子房は成長して果實となり、その中の粒が種子となるのである。

年長組の新保育期に

(二)

新庄よしこ

把握力

受持つてゐる組の子が年長組になつて今日は四月八日、保育始めの日、うか／＼してゐれば又すぐ小學校に行くやうになります。さうなつてから、しのこしの悔なきやうき、年少組の第三保育期ごろからぼつ／＼考へて居りましたが、いろ／＼ある中で、まづ談話、觀察に關して幼児の把握力、表現力なきがみんなものであるかについて考へて見ました。今朝先生から聞いたあのおはなし、幼児はそれをどの位覺えてゐるものでせうか。どの程度に理解してゐるものでせうか。さつきお友達を見て來た花壇の花のいろ／＼、それがたしかに幼児のこゝろにのこつて居るものでせうか。かう考へて見ますとき、おぼろげには頷かれるこゝがあつても、こゝろみの結果による確信の得られないもの足りなさを感じるのをございます。つね／＼これについて考へさせられて居りました。

然し唯今迄でも、今朝きいたおはなしを、すぐ次の遊びで、子供同志適當に人物を選定して、いはゞ脚本化して遊んでゐる事は屢々見かける事であります。又、描寫の巧みな子はそれを一枚の紙に繪きして表現する場合も度々經驗して、保姆は自分のした話の、意外に効果のあつたこゝを内心ひそかに喜ぶまゝ云つたこゝもありません。又ぶら／＼こゝ花壇をまはつて見て來た花を、木を、鳥を、同じく繪にする子もあれば、繪本なきに同じ花を見て、さつきのお花と同じまゝ子もありません。強いてつみめすまも、かなり印象深く子供が受取つて居るこゝをよく承知してゐますが、そのまゝに、なりゆきのまゝに、それでいゝものでせうかま考へて居ります。

一、保姆の助力で把握力をもう少し強めるのではありますまいか。幼稚園は成績を主にしませんので、子供の心像にうつる程度をあらためて知る機會が、殆んど皆無き申してよいと存じます。十をきいて七の程度に、八の程度に

自ら知り得るものはさておきその子がもし、二、三位に止まる場合、幼稚園だからそれでいゝではすまない氣がいたします。これも年少組の第一、二學期はそれでもよいとして、殊に年長組にもなれば、捨てゝも置けない氣がいたします。二、三を四、五位にすることは是非つゝめねばならないと思ひます。

二、發表力、把握力に富む子のみの結果を見て過信はしまいか。

精神力の強い子が組に四五人あれば、その子は先生に問はれないでも自ら表現し、さらに敷衍して迄發表するものでございます。繪などゝ違つて、はなしを聞く際は一人々々の結果を知る事が出来ませんから、一人が言へば私も知つてゝゝ模倣による發表をしますのでつい知らずゝゝに過信してしまふ事があります。

三、手技、圖畫を巧みにあらはし得る子が、言語發表は如何であるか。

無言でかくクレオン畫の發表が巧みであるのを見れば、この子の把握力はたしかなのはわかりますが、言語でいへば一向辻褃の合はないこゝがあつて、繪のうまさであつ

い成績のいゝ子と親が強信する場合もありませう。

さてかう申したきて、保育の一日中、さつきの整理々々でゐては保母も幼児もたまりません。却つて邪道にふみ入る懼れがありますので、そこが最も肝心なところでございます。それは今更こゝに申しませんが、程よいそれゝの方法をお考へつきになるこゝゝ存じます。

年少組の第三保育期、幼児一同とお母さん方ならびに保母みんなで一堂に會し或る集りをいたしました。この時は珍らしく種々催しありおはなしあり、つゞいて、一同會食さゝいふので、幼児にまつてはお盆とお正月が一緒に來たようにうれしい事で、前々から毎日ゝゝ楽しんでこの日をむかへたさゝいふ有様。

その日の翌日、まだ昨日の楽しきなごりを見る様でしたから一人一人にきのふの事を聞いて見ようと思ひつきまして自由あそびの際に私のところへ一人づゝよんだり又は、そばに行つたりして、

(一)昨日は幼稚園でさういふ事があつたか

(二)その順序

(三)その時見た、人形芝居のはなしのすぢ
この三つを、一人のこらすにきいて見ました。

(一)は、お遊戯室でみんなのお菓子をたべた、みんなでお話をきいた、お芝居を見た位のこゝろ兎に角平常の保育を異つた意味をあらはし得ればよいと思いました。

(二)順序は、ごあいさつ、しようか、おはなし、人形芝居、食事これは、三分の一位は全部覚えてみました、これも、特に順序を主にしたのですから、食事をさきに云つた場合は保姆の方で順序を云つてやつて、思ひ出させたり、きいて見たりしました。

(三)はなしにすればそれはかなり長いですですが三つの場面があつて、幼児にわかり易いもので、これは思つたよりよく覚えてみました。中には話してゐる中に自分が面白くなつてもう一度始めからはなしてみる、云つた子もあつた位。この時はなしあひ的にこのはなしを保姆がくり返して見ました。

此方法がいゝおすゝめするわけではなく兎に角かうした事が無さすぎる氣がしますので試して見ましたのです。

この日の事は、

(一)非常に楽しみにしてまつてゐた事、

(二)幼児全部が保姆が同じこゝろを知つてゐること、

(三)いひあらはし易い事實

これは翌日のこゝろみですが、二三日たつてから、一週間たつてから云へば又その條件も自ら異るのでさういふ方法でもこの目的は達せませう。

談話の場合よりさらに觀察はこれが大切と思ひます。途上所見に見るいろく、のこゝろは、はつきり何ききくわけにも行きませんが例へば、見て來た花の名を云はせて見る、繪に描かせて見る、きの道を通つて花壇迄行つた、等の事はくり返さきく事が出来ませう。

椿のむしり紙をしました。黒の色紙に貼つたもので出來たのを順々にならべて見るこゝろにも美しく、そして手をつけ易いので誰もく始めました。つばききは多分知つてゐることゝ、試しにこの花何ききいたら、さくらさきいふもの、うめさきいふもの、知らないさきいふもの、中の一人がつばきき云へば、つばきくゝ事實みんな知つてゐないのに口まねで云つたりしますので、せめて名のみでも知らせておくべき深く感じました。

エホンシヤウカの歌詞について

新 國 寅 彦

詩には「讀む詩」も「歌ふ詩」もある。昔は歌ふ詩のみであつたが、文字が使はれるやうになつてから讀んで樂む詩も生れて來た。

小學校の兒童以上にはこの二種あつてよいが、幼兒は智識を受け入れるのに、文字によつてではなく、たとゞ感覺を通してのものであるから、歌ふ詩のみでよろしい。随つて「エホンシヤウカ」の歌も讀む詩ではなく、耳で聽き繪を見て歌ふといふもののみを集め、幼兒が聽きたい歌ひたいといふ氣分、言換へるに音樂の好きになるといふ、即ち音樂趣味の養成に適當な歌曲を選んである。

從來幼兒に與へられた歌には、第一に長過ぎるものが多い。歌は長くなれば値打の出るものでもなければ、纏らないものでもない。短かいものを正しく本當に我物として歌ひ、其歌なり曲なりの中に融け込んだ時、始めて音樂の感

化を受けられる。長さといふことは幼兒の腦力からも、感興からも考へなければならぬ。西洋のものは一體に短かい。第二は感傷的のものが尠くない。生々した生活をなし期かに生立たしむべき幼兒には、明るい暢氣なものを與へなければならぬ。第三は教訓的のものが相當にある。藝術としての理解を與へて附加的の意味なら問題は無いが、藝術の姿をからずに露骨にかくせよかくしなければいふのは不適當である。「エホンシヤウカ」は以上の諸點を考慮して随分苦心を拂つたのである。

今各卷について佳作を一二御紹介したい。

「ハルノマキ」の

オヤツ

オヤツ ハ ナア ニ

オヤツ ハ ナア ニ

アレ アレ ミエル

オカアサマ ノ オテ ノ

アレ アレ ミエル

オボン ノ ナカ ニ

この歌は子供の心を子供の言葉でいつて居るのが大變よろしい。このやうな表現は樂なやうでなかくむづかしいものである。

「ナツノマキ」では「オヒサマ」がよろしい

オヒサマ ノ オメザメ

クモノ タオル デ プールンコ

バウヤ ニ オハヤウ イヒマシタ

オヒサマ ノ オチンチ

ニシ ノ オヤマ ニ スツボリコ

バウヤ ニ オヤスミ イヒマシタ

このやうな表現の仕方を文學上では、原始的比喻といふすべてを人間的に解釋するのは野蠻人の世界観である。子供の世界と野蠻人の世界には共通性がある。

「アキノマキ」では

ダルマサン

ダルマサン ハ エライ

コロンデモ オキル

コロンデモ コロンデモ

マタ オキル

コロンデモ コロンデモ

ダルマサン ハ エライ

オツキサマ

ウマレタ バカリ ノ

オツキサマ

ヤセテ チヒサイ

ミカヅキサマ モ

ウサギ ノ オモチ チ

タベルカラ

ダン ダン フトツテ

マルクナル

アノ ジフゴヤ ノ

オツキサマ

等がよろしい。

「フユノマキ」では

オカアサマ

オシゴト ヤメテハ

オカアサマ

ソツト ワタシ チ

ノヅキマス

ナニ ウレシイ ノ

オカアサマ

ワタシ モ ニツコリ

ワラヒマス

この歌は私共の経験からピント来る。女性的でやさしい

心を表現して居る。

ユ メ

ユメハ ダレ ガ

ミセル ノ

スグ ニ キエテ シマフ

ユメ ハ ドコ ニ

ウツル ノ

スグ ニ キエテ シマフ

ユメ ハ イツ モ

ウツ ナ ノ

スグ ニ キエテ シマフ

これも原始的比喻を用ひて居る。「ユメハダレガミセル
ノ」ミいふのが面白い。

芭蕉は

氣さを以て無分別に作すべし。

ミいつて居る。直観ですつぱりやれ、頭の中でひねくるな
ミいふのである。又

心の作はよし。こまばの作は好むべからず。

この心は幼児の歌にもうつしてさしつかへない。幼児の
歌はすべてこの要點で作られなければならない。

世界人形行脚記 (九)

——世界教育大會より歸りて——

フレーベル館社長 高 市 次 郎

▽水都ゼニス△

ファシズムの國、英傑ムソリニに就いて、或はファシストの種々な話などは、下位春吉氏によつて羅馬の宿の旅の徒然を慰められ、時には談論風發して深更にさへ及びました。私達は翌朝七時三十五分、羅馬を後に、水の都ゼニスを訪れて、伊太利に於ける私たちのスケジュールを終るつもり。

午後八時ゼニス著。

水の都、ゴンドラの街、更にその狭い巷路巷路はあまりにも有名であり、見物のエトランゼーに忘れ難い情趣を満喫せしむるに十分である。

全市百五十有餘の島から成り、同數以上の大小の運河に

よつて四通八達。交通機關としては例の粹な形のゴンドラミ小蒸汽の僅かゞ見受けられます。 兩側には高い建築がならび、ゼニス獨特の柱頭ミ迫り持の家々も見受られる。そしてその運河を私たちはゴンドラによつて通るのである。

夙に海港ミしてひらけた所で、昔は世界商業の中心地、十五世紀の頃は四十五艘の商船ミ一萬一千名の乗組員ミがゐり、各國ミも、その殷盛を極めた通商貿易にはひそかに羨望の眼を瞠つてゐたミいはれてゐます。併し、前に述べたやうに水に浮んだ町であるから、嘗て外敵の侵入を受けた事がなく、たゞ一度、大ナポレオンによつて屈服させられた事があるミいふ、それほミに水都ゼニスミとしての堅固な要害ミ名譽ミを誇つてゐるわけでありませう。

平和郷であると共に、繪畫に、詩に、音樂にその情趣を讀へられてゐるゼニス、折からの夜の運河は、たぶくくとした水に灯影をうつして、オカリナの優雅な樂音こそきかね、ゴンドラの櫓の音が川靄にぼけてやはらかに聞えてゐました。

こゝでは到る所お土産品を賣つてゐます。ゴンドラの船椽を踏んで陸に上ればそこはもう薄暗い露路のやうになつてゐて仕事をやつてゐる、これを見乍らゆく工場があり、此の工場は大體細かい仕事をしてゐて、製作工程のはじめの方の粗ごなしは別に郊外の工場でやるまいふ。工場を抜けるで始めて營業所がある。

「いかゞです、段々御覽になつて、お氣に召した品が御座いましたら是非……」

と言つた工合ひ、それはく抜け目なく出來てゐて、こゝが表通りになる。

斯うして硝子工場、玻璃器製造販賣所やあの高價なレース編み工場等があります。

硝子工場には、紅、青等の美しい切り子の器物、シャン

デリヤの裝飾としての頗る手のこんだ、文字通り燦然たる輝きを反射してゐる素晴らしい切り子細工が眼につきました。が、何と言つても、精巧に描かれて油繪を前に置いて、硝子の細い破片の如き微粒の一個一個をピンセットで運び乍ら、原畫の油繪を模して濃淡は更なり、そのトーンまでも忽にせず、忠實な模寫を爲す無名の一女流藝術家にも云はれるであらうところのモザイク女工の緻密にして巧妙な手際を忘れることは出來ない。

私はそこで小さい額面用のモザイクミ、和服の帶留用にご思つて極めて小さい——帶留の裝飾金具位の大きさ——を買ひましたが、相應高價なもので、額面はサンマルコ寺院を遠景にした大運河にゴンドラの浮ぶ風景、帶留の方はヴチカン宮殿を描いた極めて精巧且つ緻密なものであります。

レースの工場も亦硝子工場のやうな配置になつてゐて、僅に拇指頭大の所も、それはそれは女工の華著な器用な手先きで入念に編んでゐる所、その製品の高價なことを想はせる。婦人服飾品として、邦價二百圓三百圓といふのは普

通見られる價格であります。

その外皮革の加工も盛んに行はれてゐて、所謂きんから革の製造加工が専ら行はれ、ハンドバック、鞆、紙入等が澤山に拵へられ、然もまた藝術味の豊に溢れた豪華なものであります。その他、銀の細線を以て、前記のレース編みの如く作られ、器物の周縁を裝飾した、素晴らしい見事な精巧なものもある。

陶器も精緻な工作を施したもの、或は粗い雅味ある製品等を賣つて居り、その他、銅の細工もの彫刻等澤山にお土産品として賣られてゐます。

『おはいりなさい』

『お土産お買ひなさい』

なご、私たちを日本人に見て巧みに日本語をもつて客を呼んでゐるには驚きました。

斯した店舗は頗る立派なもので、前記の硝子製品の陳列場など四五十坪もあらう言ふ所に、美しくきらびやかに列べてあります。そして其所の老爺の話による世界各地への輸出も莫大なものだといふが、成程その店舗の構から

推して、強ち東洋からの行脚の私たちの度臆を奪ふ法螺ののみは想はれませぬ。

▽サン・マルコ△

前にも記した通り、ゼニス街通りは曲折し不規則であり、人家の窓下に設けられたトンネルの如き、日中でも往々ランプが燈されてゐて小暗く、之をゆく中庭のやうな廣場があり、更に小さなトンネルがあり、これ等が立派な通路として、地面上に現はされてゐます。斯した抜け道、狭い通路しか持つてゐないゼニス市民、乃至は一般觀光客にまつて、眞に美しい伊太利の蒼空をながめ、背のびをすることが出来るのは廣場であり、此の廣場がゼニスに於いて重要な意義をもつてゐます。殊にサン・マルコの廣場はサン・マルコ大寺の前に擴がつたゼニス第一の廣場で、全市の中樞でもあり、サン・マルコ運河を前にヅカレの舟つき場として此の町の心臓でもあります。頗る澤山の鳩が群れ遊んでゐて觀光客の身邊に飛んで来て可愛い親善ぶりを發揮する。此所の廣場に集ふ人々も各國人を網羅して其の数は夥しい。

サン・マルコ寺院は西紀八百二十九年の建立にかゝり、此の市の守護をするさいふ聖者マルコの遺骨を祀つた所で、北伊太利隨一の靈場であります。そしてその壯麗華美を極めてゐることは、その隣に位置するバラッオ・ツカール(舊政廳)の建物と共に、世界的に有名であります。

寺院の正面からその大天井、天井から壁、床に至るまでツカールの廻廊の石柱、廣間の格天井の壁畫、何れもモザイクならぬはない。夫れが油繪に於ける點描の如く、而もその材料による獨特の光輝ミ效果を以て旅行者の目を驚かすに充分であります。案内者はこれ等のモザイクに覆つた硝子の面積は實に四軒を次乘した廣さに及ぶ云ふ。

この寺院は十一世紀にビザンチン風に再築せられ、十六世紀に完成され現在に及んでゐる云ひます。

市長ドツチーが十字軍を指揮したさいふのも此所でありま

す。
ゼニス(Ennis)は美術の都としても數々の寶玉の如き名畫が藏されてゐる所で、文藝復興期のカルパチオ、ジョルシオーチそれから十六世紀の伊太利が生んだ最大の畫家ティチアノ

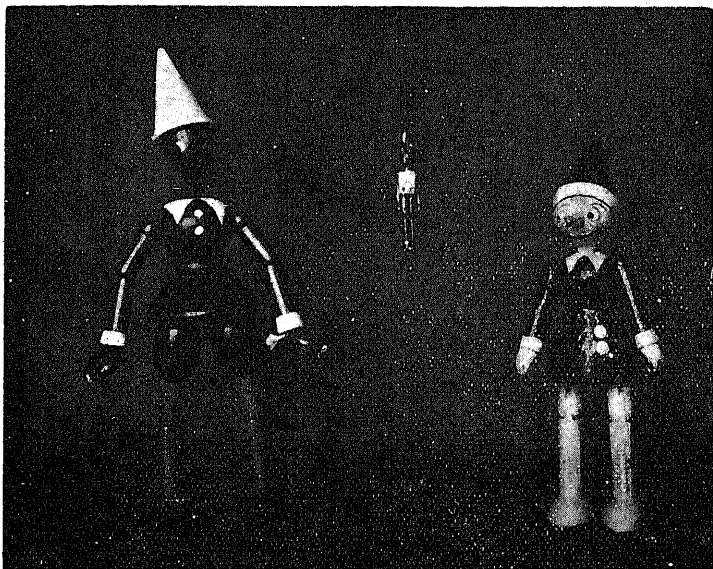
及びヴェロネーズ等の作品が、アカデミヤの畫廊に又は市内の有名な寺等にあります。ティチアノの墓はサン・マリヤ寺院にあり、その内部は何れもその名作で飾られてゐましたが、かの「基督昇天の圖」は幽玄壯重な感じを以て觀者をして自ら頭を垂れしむる偉大なる力を感じしむるものであります。

▽ピノチオ△

伊太利はピノチオが全國の子供によろこばれてゐて、繪本になりお噺になり、玩具になり、又實に時計の下げ物にまでなつてゐます。

丁度、我が國に於ける「のんきなきうさん」の如く、それはく子供達によつて騒がれてゐます。ムソリニ氏を知らなくもピノチオは總ての子供はしつてゐます。

私はゼニスに於いてピノチオを幾つか買ひ求めました。茲に三個のピノチオを寫真にして掲げましたが、或る日、前に述べた通り、運河をゴンドラに揺れ乍ら、ミある船付に舟をつけて飛び上るミ、其所に大きな丸い眼鏡をかけた好々爺らしいお爺さんが、小さい金槌を持つて、我國の金



ピノチオ

上の寫眞に見えますピノチオ、右は伊太利製の木製、中央は十八金の時計さげに作られたもの、左端はチエツコスラバキヤ製の木製で、米國で需めたもの、他は何れもエニスで買ひました。

工屋さんのやうに、カチカチ仕事をやつてゐる。金色の金屬彫刻の完成品も狭い臺の上に並べてあつて、細工をし乍ら賣つてゐる。

私がお前に立つて觀てゐると、

「東洋のお客さん、一つお買ひ下さい」云ふらしいが、一向伊太利語で通じない。そしてお互に少しも判らない會話を交換した揚句私は

「8X」を書いてみせるに、「ノー、ノー！」云つてこの無名の老工匠、色をなして辯明大に努めてゐるが少しも判らず「18X」を書いて三十何リラといふ。お互に結構判つたやうな顔をして買つたのが、矢張り小さい可愛いピノチオの時計下け。而もこれが眞正の十八金で、其の工作も頗る精巧であります。兎に角、伊太利に於けるピノチオは子供の間に非常に入氣があります。

園児の躾と家庭との連絡

京都 永観堂 幼稚園

昭和七年四月入園後二ヶ月経過の後、即ち六月に保護者に對して、次の甲乙の問題を、園にて躾けたる丙の事項に對し、どんな程度にまで實行が出来てゐるか、問ひ合せを發して、それ／＼忌憚なき意見を求めました、そこで保護者より回答のまゝを、左に列記して御參考に供して見たいと思ひます。

甲 お子達様の入園前と、入園後とに於て、身體方面、精神方面、其他の方面に於て、どんな變化がありますか。

乙 お子達様の性質、其他の癖等はお子達の躾の上に於て承知しておき度いから、遠慮なくお知らせ下さい。

丙 園にて躾けたる事項(昭和七年四月よりの分)

- 一 行つて参ります。
- 二 只今かへりました。
- 三 有りがたうございます。

四 先生お早うございます。

五 皆さんお早うございます。

六 よくいらつしやいました。

七 神佛のお前に禮拜すること。

八 朝起きて食事前に東に向つて「天子さま、お日さま」へお禮のため敬禮すること。

九 毎朝必ず齒楊子を使用すること。

一〇 毎日曜日には手足の爪を切ること。

一一 毎食後は必ず口をすすぐこと。

一二 朝と夜寝る前には家族の方々へ挨拶すること。

一三 自分の名を呼ばれたら、「ハッキリ」返事すること。

一四 椅子に腰をかけたる時は、姿勢を正しく兩足を揃へること。

一五 座したる時は正しき姿勢をとること(晝食の時にはよく注意して居る)。

- 一六 何れのところでも履物は「キチン」と揃へて脱くこと。
- 一七 間食はなるべく時間を定めて、決して不規則にいたゞかぬこと、但し日曜日に限り午前一回、午後一回、平常は歸宅後一回。
- 一八 遠足等の折には、お辨當以外には食物を携帯せぬやう指導をなす。
- 一九 食事前には必ず手指を洗ふこと。
- 二〇 食事する前に箸を両手に捧げて次の歌をうたい「いたゞきます」と唱へて合掌をすること。
 「箸とらば天地御代の御恵み、父母や師匠の恩を味へ」
 食事終らば一同箸を箱に入れて両手にもちて「こちさうさま、ありがたうございました」と唱へ、口をすく。
- 二一 毎朝「君か代」を歌ひ、御眞影に對し最敬禮を行ひ、お式をいたして居ること。
- 二二 食物のお菜には小言をいはぬこと。
- 二三 園内にて他人の呼び方「先生、〇〇さん。〇〇君。おぢさん、おばさん(小使)」。
- 二四 自分の場合は僕、私といふこと。
- 二五 お友達仲よく遊ぶこと。
- 二六 幼いお子達はいたはること。
- 二七 奇麗なお言葉を遣ふこと。
- 二八 鼻汁の拭ひ方其の跡の始末のこと。
- 二九 道具を使用せば一定の場所に片付けること、其のまゝに置かぬやう注意。
- 三〇 水道の水を濫用しないこと及び栓に注意すること。
- 三一 紙屑をかみくづ籠以外に捨てないこと。
- 三二 ハンカチ、カミ、を忘れないこと、女の子達は髪をくしけづること。
- 三三 道は左側を通り道草をせぬこと。
- 三四 幼稚園より歸途お友達の内立ちらぬこと。
- 三五 道にて母姉に物をなれだり、又は露店の前に立ち止まらざること。
- 三六 途中先生やお知り合の方に出會へば敬禮をすること。
- 三七 動物をいぢめぬこと。
- 三八 幼稚園にていたゞきたる菓子等を途中にて食べないこと。
- 三九 朝は早く起き(このころ七時になれば)、夜は早くれること(このころは八時にならばやすみませう)。
- 四〇 平常腹巻を忘れざること。
- 四一 自動車内の注意として

- 1 大聲を出してさげがぬこと。
- 2 特に幼い年のお子達を親切にすること。
- 3 戸びらの開閉に手をふれざること。
- 4 昇り降りによく足もとに注意すること。
- 5 自動車内の道具に決して手をさげらぬこと。

以上甲乙丙の問題竝に事項に對し、保護者から忌憚なき御返事が参りましたから、そのまゝ参考のため記載致します(重複せる回答は省く)。

甲

- 一 登園を喜び毎日元氣で参ります。
- 二 方位(東西南北)を正しく知つて参りました。
- 三 協調性が芽へて來た様であります。
- 四 御蔭で身體が大變に丈夫になりました。
- 五 大變に聞き分けがよくなり、大なる無理を云はぬ様になり、身體が丈夫になりました。
- 六 伸びく々と大きくなつた様です。
- 七 物事を見る目が確かになつた様に思ひます。
- 八 規則が割合正しくなりました。
- 九 身體の發育良好、食慾増進、長く眠ります。

- 一〇 血色が良くなり、病氣の度數が著く減じました。
- 一一 禮儀作法の感念ができ、素直になり、理解力が發達した様である、近所の人も良くなつたと申されます。
- 一二 食慾旺盛となり、食物の嗜好嫌がなくなり、血色が大變よくなりました。
- 一三 信仰心が出來、子供心にも感謝の念が次第に解つて來たこと、何一つ物品を大切に扱ふ様になりました。
- 一四 身體の發育益々旺盛、健康目に立つてすぐれて参りました。快活で明るくなつて参りました。
- 一五 なか／＼我まゝでしたが、私達の云ひ付けをよく聞く様になりました。
- 一六 入園前は食事が少しも進まず、お腹の具合が悪かりしが、入園後は間食を止め、食事も進み、身體も健康になり、規則正しき運動のため手足其他の部分の筋肉が、大變に引締り強くなつて参りました。
- 一七 入園前はとても恥しがりで、人様の前に出れば何事も致しませんでした。が、入園後は大變によくになりました。
- 一八 意志も強くなり、何事も自分の事は出來るやうになり、快活な心持となり、信仰心が出來、神や佛を拜むやうになりました。

一九 身體が丈夫になりますのが目立ちます、又家で我ま、一

ばいに遊んで不自然に叱られたのも、入園後は叱られる事もなくなり、子として親として幸福に存じます。

二〇 身體も大變に丈夫になり、幼稚園に通ふのが、嬉れしいと見えて一度もいやな顔をした事がありません。

二一 血色よくなり、體量が増加し、外で遊ぶのを喜ぶやうになり、元氣で活潑になり、御飯を澤山に食するやうになりました。

二二 入園前は四條烏丸から植物園までの電車にも乗れなかつたのが、身體が達者になると共に長途の電車や、自動車にも弱らぬやうになりました。

二三 園にて草花や動物を愛するやう色々のお話を承ると見へて、云ひつけられぬのに夕方には花木に水をやり、又金魚が死ぬと可愛そうだから水をかえてやつて下さいなど、やさしい事を云ふやうになり、嬉れしい事と思ひ感謝して居ります。

二四 時々今日は目がいたんだから、先生に目薬を付けて頂いたとか、けがをしたからお薬を付けて頂いたとか、エプロンを洗って頂いたとか、申して歸て参ります、ほんたう

にお世話を感謝します。

二五 身體が丈夫になり、起床就寢が正しくなり、臆病がなくなり、何事にも姉を敬ふやうになり、お遊戯が好きになり、甘へる事が少くなりました。

二六 活潑に鋭敏になりました反面に横着となり、兄弟でよく喧嘩をするやうになりました。

二七 間食をしないやうになり、三度の食事が大變に進むので入園前より健康となり、肥つて参りました。

二八 大變に聞き分けがよくなりました。以前程かんを立てぬやうになりました。

二九 動作が活潑となり、身體が大變に丈夫になりました。

三〇 身體方面が目に見えて強壯になりました、智的方面も大變に進んで來ました。

三一 身體が丈夫になり、間食せぬやうになり、友達と仲よく遊ぶやうになりました。

三二 三度の食事が大變に進むやうになり、又行儀言葉共によくなりました。

乙 一 負けざらひで注意すると、すれて反て結果が悪い。

二 返事が「ハイ」と早く出ない。

三 食事後に横になるくせがあります。

四 強情で困ります、なかなかすなほに聞き入れません。

五 我まゝ、強情、物事をするにも終りまですつかりする事が少ない。

六 依頼心が強く何事をするにも身が入らない。

七 左ぎきで何でも致します、なか／＼直りませぬ。

八 過失した時直ちにあやまりませぬ。

九 快活な返事をせぬ、子供らしく素直に物を請求せぬ、強情で陰性を帯びて居ります。

一〇 性質の關係でありますが、何事もハキ／＼せぬ、活潑さがないうです。

一一 自分の思ふ事は善惡に拘らず直さうとします。

一二 外來の人があれば却て亂暴な事をします。

一三 自分の意思に反した時は、中々強情で無理を申します。

一四 近所の遊び友達が年上の方のみだから、言葉使ひ惡しく手ですぐ、なぐるくせがあります。

一五 落付きがなく注意が散慢である。

一六 少し強く叱りますと、よく言ふ事を聞きますが、餘り強く度々叱らぬやうにして居ります。

一七 生れつき神經質で落付きがありません、一寸した事を氣にしたり、他人の事をコソ／＼世話し随分細い點にまで氣が付きすぎます、もつとノンビリとした性質に致し度いと願ひます。

一八 自分の思ふ事は何事も通さなければならぬ性質であります。注意したり教へたり致しますと、其理由を尋ね、自分の意に充たぬと徹底的に尋ねる性質です、内ではとても、おいたを致しますが外へ出ますれば恥しがつて仕様が御座りませぬ、外へ出ても今少し元氣が出たらと思ひます。

一九 非常に我儘で自分の思ふた事は通されば承知しません、又不注意で寸時も注意深く落付て居る事がありません。

二〇 何事によらず他より注意など致します時は、必ずもう一度それを繰り返してからでないと思ひませぬ。

二一 宅ではどうも言語が粗雑で、性質が亂暴で、兄弟喧嘩を致たしますと、負けて直ぐに物品を投げつけるくせがあります、父が居りますと大變よく云ふ事を聞きます。

二二 少し叱りましてもすれるくせがあります、亦強く叱りますと一日心に持つか夜熱が出たり、ヒキツケを起します。

二三 氣がよすぎて他人になつき易い、反面に氣が弱くて、から元氣の方です落付きが足らず急で困ります。

二四 はにかみやで他人様に禮や言葉が無邪氣に致しませんのが悪いくせで、稍々我まゝであるが、他處では非常に内氣で人に馴れない方でありませぬ。

二五 一言云ひ出した事は必ず通さればをかず、氣に入らぬ事があればすぐ泣き出します。

二六 買喰ひをしたり、他人の持つて居る物を欲しがらくせがあります。

二七 意志が堅くて負けず嫌ひのくせに、はにかみやでありませぬ(家では園で教はつた唱歌や遊戯をやりませぬ)。

二八 陰氣で好き嫌ひ多く子供らしき、期らかな處が少く家で外に出て遊ぶ事が少ない。

二九 他人様に負けるのが嫌ひで困ります。お友達を好き嫌ひして困ります、何事も永く續きませぬ。

三〇 何事も自己心が強く他人の持つてゐる玩具を欲しがるので困ります。

三一 自分の仕様と思ふ事の外は他から何と申しても中々しませんので強情でこまります。

三二 近頃は玩具を欲しがり、ケーブル、電車とか望遠鏡とか欲しいの連發で、其の取捨にこまります。

丙の躰の各項目に對する實行の程度は、入園後僅か二ヶ月後の事であるから、また充分きは申されませんが、短時日ではあるが相當の成績を擧げてゐる。今一々其統計を示すこゝは、紙面の都合もあるこゝにて茲に省略致します。

乙の問題に對する各家庭の忌憚なき申出は、その後の躰や、個性の觀察、その他矯正指導上に幾多の便利を得たる次第で、その個性を適當に善導して良成績を擧げた幾多の實例を有するも、是れ又今回は省略致します。

もまゝ、幼兒の躰は母親の教育による事多大である。それについて大切なお子達に一度喜び事を教へて知らずく實行を續けて行くには、決してどんな障りがあつても『まあ一度位は休んでも、せなくてもよい』、お子達の無理にたい打負けてしまはれるやうな事のないやうに進んで行かれる事が必要で、根氣くらべであります。子の愛に引かされて良習慣の破られるこゝが有りますから、まして人間一生の必要な躰方にありては、夢にも甘い言葉で折角の良習慣をこはされてしまふ事のないやうに、お母さまが根氣強くなされる事、まごまでも反覆練習が何よりも大切な事に存じます。

若き保姆としての初経験を語る



東京 森村幼稚園保姆 清水貞子

日頃から保姆としての私にまつて、善き教師となり善き友となり、又我が心の血も肉もなるやうに思はれて、隅から隅までむさぼるやうに讀ませて戴いてゐた「幼児の教育」の二月號にふき「保姆の初経験を語る」の原稿募集を見出しました。そつだ。自分も保姆の初経験をした一人なのだ。やがて滿一年になる保姆の生活。此の紀念すべき時に當つて、何か語るべきことがあつて然るべきだを考へたのであります。

* * *

思へば、私が保姆になるさいふこと、それは今から一年前までは考へてもみなかつたことでした。保姆としての正

式の勉強を少しもしてゐなかつた私でした。唯女高師で教育の時間に我が尊敬せる倉橋先生から、フレール先生のこみや、「幼児の自發活動について」等さいふ御講義を、興味深くノートしてゐたにすぎませんでした。その私が縁あつて去年の四月櫻咲く陽春のよろこびと共に、始めて相見ゆる幼な兒に接するうれしさを胸一杯にあふれさせながら此の幼稚園に來たのでした。それから今日に至る一年間の経験は私にまつて何さいふ紀念すべき尊い月日だったのでせう。今私はしみじみ自分の現在の仕事の如何に尊く清いものであるかを……如何に得難いめぐまれた生活であるかを、心から思つて見てゐるのであります。

けがれなき雪のやうに純情な彼等の心。何等の虚飾なき羽二重のやうに美しき彼等の心の肌。天真爛漫な彼等の童心。まごこの人間の姿をいみじくも惜し氣も無くさらけ出して全き心まごこの接觸をなし得る彼等の生活。幼な兒等と共にあるまき、これら神の子の限りなき美しき姿を目のあたりに見て、唯我が心の如何にみにく、けがれてあるか、我が心の肌の、彼等に觸れるべくはあまりにあれてあらずや如何に邪氣に満ちく、唾棄すべき我が心であるかを切實に思はせられたのであります。少しでも彼等の心に近付かう、少しでもまごこの人間の姿に立ちかへりたいまごの願ひで、此の一年間の尊き経験は、實は私にまつては、幼な兒に與へるべき何物もない、私自身に神から與へられた非常に大切な時だつたのでした。

* * *

「保姆の経験を語る」。それは私には甚だ僭越なまごだと思つてゐます。ミても自分の貧しい経験なきを語る資格はないと思ふのであります。殊に保姆として正しく養成されてゐない私は、幼稚園に於ける毎日が、何から何まで疑問

だらけの實に自信の無い保姆なのです。しかしやはり私も保姆の一人として、まづ、いいながらも眞剣にその道を歩もうと努力して來ました自分の姿を振りかへつて見ますまき、何かしら感じたまゝを洩らして見たいやうに思つたのでした。

* * *

幼い子等と共にあるまき、それは何まごいふむづかしい事なのでせう。あのやはらかい純な魂を、このむくつけき大人の心は、何かにつけておしひしけてゐるのではないでせうか。あの無邪氣な天真爛漫な彼等の尊き童心を、このかたくなな憎むべき大人の心は、何かにつけて、おしつけやうく、まごしてゐるのではないでせうか。時々まごそのやうなものを自分の心の中に見出して、その罪のおそろしさに戰慄するのです。自分の氣の付かない間に如何に度々この様な罪を犯してゐるのではあるまいかと思ふまき、はかり知れぬ罪の深さま寂しさを感ずるのであります。

私の友達に會ふま必ずたづねます。「女學生を教へてゐた後で幼稚園へ行つたら、のんきでミてもいゝでせう」

こ。併しこれはほんごうの子供さいふものを知らない人の言ひやうでせう。幼稚園の保母こそほんごうにむづかしい仕事です。対象が神のやうに純で羽二重のやうにやはらかな心の肌を持ち主だけに、いゝかけんにすまされない或犯しがたい物を感じて、保母の仕事の容易ならぬむづかしいものであるこごをしみじく思つたのでした。

いつか「幼児の教育」に倉橋先生の味ふべき御言葉を見出し得て、心から敬服し心から感激したこごがございました。それはこごいふ御言葉でした。

「子供の心もちは生きてゐる。その心もちを汲んでくれる人、その心もちに觸れてくれる人だけが子供にこつてうれしい人、有難い人である。

子供の心もちは、極めてかすかに、極めて短い。濃いい心持ち、久しい心もちは誰でも見落さない。かすかにして短き心もちを見落さない人だけが子供と俱にゐる人である」

こ。

あゝ、何ごいふ尊い御言葉でせう。ほんごうに私も子供

のかすかなく心。淡い短い心、それを見落すまい。その心もちに情を同じうするのでなければならぬこごいふこごが、此の一年間の経験で少しづつ分りかけて來てゐるやうなうれしさを感じます。子供はそのかすかなく、言葉に言ひあらはせないほごにおは、自分の心の動きに對して、先生が無言のほゝえみこ共にやさしい手をのべてやはらかに、こごに觸れてくれた時、みんなに無上のよろこびを感ずるこごでせう。私はその子供のよろこびを我がよろこびとし、てよろこびたいこごいふ得難い心を、此の一年間の経験が尊くも私の心に植えつけてくれたのでした。

* *

同じ神の子にも實に種々様々のあるこごを幼稚園に來てしみじく考へさせられました。顔貌のこごのへるものこごのはざるもの、整頓せる頭腦を持てるものこご、霧のかつてゐるやうにぼんやりとした頭腦を有するもの、すばらしい才能を有するものこご然らざるもの、こごうしてこんなにも不公平なこごがあるのでせう。彼等は一樣に愛すべき童心にめぐまれて、それこごに生活を生活してゐるのですのに、

何こいふ不公平なここなのでせう。顔かほのここのはざるもの、ぼんやりした頭腦かみのもの、彼等は好んでそのやうに生れて來たのではないでせう。整頓せいとんせる頭腦かみの持ち主、すばらしい才能たのむねの持ち主、彼等かれらでも自己の意志によつてそのやうに生れて來たのではないでせう。それらよよきもああしきも、それそれららに無心に活動する姿を眺めるここき、測り知りがたき神の攝理しやくりの前に、何こもいへない感に打たれるのです。

* * *

子供の口を衝いて出る言葉の何んなんこ意義深く面白いものでありませう。子供の心はままここに奔放自由です。大人の想像も及ばないあらゆる世界に飛んで行きます。そしてそれがみんな言葉になつてあらはれます。私はそれを書きこるべく小さな手帳をふふこころにしのばせてゐます。

ほほいいましい子供の言葉、味ふべき子供の言葉、私共は子供の言葉に教へられるここが澤山あるやうに思ひます。保母になつて始めて子供の言葉の如何に尊くも味ふべきものであるかを知りました。

「幼児の吐露する片言に子供の住む世界が窺はれ、子供の持つ人間性が見られ、子供の伸びる將來が暗示されて居ます。人の子の親も教師も幼児の言葉にままづ耳を傾け心に味つて見るべきであると思ひます」ここいはれたさる方の御話をうれしく讀んだここを思ひ出します。

* * *

子供はなんなんこいふ神秘的なばかり知れない存在なのでせう。私共の目に見るここを許されてゐない聖い天使の姿のやうに、大人の世界せかいを全くちがつた別の世界に潑刺しやくししてままび廻つてゐる彼等の姿。我々のその子供の世界に入り込むここの何なんこむつかしいここよ。その困難なここを思ふここき、私はよよほほここの勉強をするのでなければわが愛する子供に對して大變に申しわけがないここいふ緊張を我が身にひしひしく感ずるのであります。しかしてままここに幸福なここは、我が幼稚園に心から尊敬すべき先輩の居られて、何かにつけて至らぬ自分に親切な指導を受け得るここです。その子供の心を思はれる深こい御心、私の淺はかな思慮の到底はかり知るここの出來ない保育に關する細こい御心

づかひ、それらの片鱗をうかがふここの出来る毎日をほん
まうにうれしく思ふのです。

* *

心から尊敬して止まない先輩のもで、我が心を信じ切
つてひたむきにその神の心を寄せてゐてくれる愛しき幼な
兒等と共に、生き甲斐ある生活を爲し得る現在を、虔敬な

◇

「なんだかやさしさうな先生だね」。始めて登園した所、
お遊びの時に始めて先生と呼ばれてピアノを弾くこみを所
望されてキーに手をふれた時だつた。

男の子のくせに女の子の様な聲を出して女の子さばかり
遊ぶ白い毛糸服に長めのエプロンをかけた子が私の横顔を
ジロ／＼見ながらそばの女の子にさゝやいた言葉。新米
の先生を子供でもやはり批評眼を働かせて見るのだナーまほ
ほえみながらチラミ子供の顔を見た時に恥かしさうに面を
ふせた内氣な子、すつミ前から幼稚園に來てゐるらしく、

る心もて感謝すると共に、この神の恩寵に報いんがために、
乏しい自分を磨くべく更に心に鞭打つて保育の道に精進し
たいと思ふばかりであります。この道こそは、實に長く自
分のさがし求めてゐた清く尊い我が使命であるこみを、一
年間の保姆の生活が教へてくれたのであるこみを、今にし
て始めてしみ／＼考へてみるのでした。(八、三、一七)

山口市 白石幼稚園保姆 寺田 明 惠

かなりおませらしい連中はグループを作つてはしやぎ廻つ
てゐる。

四月のこまで先生方のお手がたりない見えて淋しさ
うに皆の遊びを見てゐた女の子が少しづつ私の方へ寄つて
來てこわ／＼私の手をこつた。

ほ／＼づりしてやりたい様な血氣の良い頬、黒の腫、フサ
／＼したオカッパ、やはらかい嗅げばお乳の匂ひのしさう
な可愛い手、弟妹を持たぬ私はすべてのこみがたまらなく
可愛かつた、その表情が、その動作が……

絶対に信頼しきつてゐる母以外にかうも親しみかうも敬愛してくれるものか感謝ミ愉悅の中に半歳ばかりは夢の様子に過ぎた。

そろ／＼子供各自の個性も見えて來た。

子供に少しは話も出来る様になつた。いたづらつ子なきそろ／＼鼻について來た。毎日同じ様な保育案にもこちらからあきて來る頃になつた。

研究すれば奥の知れない幼児教育ミ云ふ大森林に一人行き迷つた様な心細い感じが毎日／＼私の神經をミがらせた。

これからさうしたら眞に面白く子供ミ共に生活出來彼等を純眞に子供らしく導くこゝが出來やうか、書物を見ても理想の保育はおぼろげにもわかつた様に思はれても實際子供に直面して彼等の、雲の中から櫻の花でも咲き出したこともたまへられるやう様な空想も幻想もつかないフワフワした様な質問、赤裸々な生活をブチマケての遊びに對しぎの程度に應じぎの程度に抑制すれば良いものか一々手をこる様に教へて下さる人がほしいに到底出來もしないこ

ミまで思つて見たりした。

それに加へて實社會へ踏み出して始めてわかつた荒波、すべての人の人格の裏面。

つくづく職業婦人ミ云ふレッテルを貼つてしまつた自分を後悔したのも此の頃だつた。

月日は遠慮なく水の如くに流れ去つた。

一年經ち、一年半經ち、二年もやうやく過ぎやうこしてゐる此の頃、來し方を振り返るこよくも／＼子供からぬけきりもしない時からやつて來たものだ、やはり何も尊い經驗になるものを、第一の難關をまけないできりぬけて來たミ自分ながら感じる時もある。いつまでかう云ふ境遇に身を置いてゐるものかわからぬがミにかく精進だ！、向上だ！、梅一輪一輪、つつの暖さ。ねこ柳も白い可愛い芽をふき出した。桃の節句も近付いた、道の若草も萌え出やう。園全體なんミなく春めき、はちきれさうな希望ミ喜びを胸に抱いてはねまわる子供。春だ、櫻の茶掲の肌にもやがてふき出やうやはらかな若芽の氣はひも感じられて……

よろこびの春だ！ 新學の春だ！ 明日の子供だ！ 第

二の國民だ！　そしてそれを導く我々だ！！

力強く大地を踏んでしつかり立たう。



み　　り

(一)
「先生お母様になつて頂戴よう」

日のよくあたる、程よい廣さのお庭に敷いたござの上で
おまゝ事がはじまつた、お砂場用のお椀がお茶椀、バケツ
がお釜、トンチルが茶箆筒等の重要な役目をして居る。ござ
のすぐ横の小さな花壇には、秋に皆で植込んだチェーリッ
プの芽がやはらかい土を突破つてそろ／＼小さな頭を出
しかけて居る、お嬢さん達は甲斐々々しくも御掃除やら
お買物に出掛けたりして大忙し。四・五人居るお坊ちゃん
は A 先生と御一緒に少し離れてあるお池の水かへに大忙し。
フツと見上げる空の美しさ、青々澄み渡つた空にうつす
ら／＼飛びかつて居る雲まで何て美しいんだらう。あゝ何て
のびやかな朝だらう、何て靜かな氣持だらう、みるもの聞く

もの、總てがほゝえまゝに居られないあざけなさも靜かさ
だ。

「お母様早くお食事にして下さいな」

「おかあやま、おなかぢちゆいたのよう」

お姉様になりましたお嬢さん、赤ちゃんになりきつた

お嬢さん方からのお食事の御催促。

「さあ／＼作りませうね。今日は何にしませうか、お壽

司？　草園子？　何でもお好きなものにしてよ」

バケツのお釜、砂によごれた木椀のお茶椀等がおさない

世界のお料理を作るのに充分役立つてくれてまた／＼くまに

おいしい御馳走が出来る。

お坊ちゃん方はお池の汲出しにもあきたま見えござの上

に足をなげ出して日向ぼつこをして居る、誰か歌ふさも

なく小さな聲で「何處かで春が生れてる……」と口ずさんで居る。

何きもいへないホガラカな風景だ。

此の和やかな子供の世界に浸つて、何も彼も忘れて、すっかりお母様になりきつて一緒に遊ぶ氣持……それは何きもいへぬ心の底からの愉快その物だ。「あゝ愉快だ、こんなに私の胸は廣やかに開ききつて居る、何て楽しいんだらう。誰が何き云つてもこの心ののびけさはつぶされはしない、まあみてくれ、この晴やかな心の中を」諸手を擴げて大空に向つて叫び度い様な氣がして来る。

しかし此の時心の中で何か囁やく聲がして来る、「こんなに、いゝ氣持になつてしまつて、唯お子さん方き一つになつてしまつて遊んで居ていゝのだらうか、何か大切な事を忘れて居やあしないかしら、此れで一體教育になつて居るのかしら？　こんなに子供みたいになつて遊んで居る保姆つてあるものかしらん」。

其の囁きは次第に大きな聲になつて私を責める、自分自身でもハッピしてその聲をひしひし身に感じながらも、

又一方では「其れでいゝんだく」。ミ何故こもなしに無條件に肯定する心が湧いて来て前の囁きを押のけ様とする。囁きは一層聲を大きくしてせまつて来る。

斯んな矛盾した考へは、私が愉快にお子さん方き遊べば遊ぶほご濃くモク／＼と湧いて来て私を悩ます。此の悩みは何時になつたらさけるだらう、誰一人きして相談にのつてくれる人を持たぬ小さな私は苦しみながらも自分自身で何時迄も悩まされなくてはならないのかしら。

(二)

「さあ、お雛様作りませうね、今差上げるから待つて頂戴」

すつかり用意したお雛様のお顔やら、いよまさをくばる。幾日も／＼いろいろのお雛様をみたり、本をみたりして考へて考へて考へぬいてつくり出したお雛様一揃ひ、缺點だらけではあらうが私としては全力を注いで作り出したお雛様、早速そのまゝを皆さんにさせる。

大内裏様、三人官女、五人ばやし、櫻、橘ミ豫定通り一

日々次第に出来上つて硝子棚がだん／＼満員になる。人に教はつて作つたのこは異つて自分の力の限りを盡して作り上げたものだけに、其のだん／＼出来上つて行くのを見るこ何さもいへぬ嬉しさがこみ上げて来る、何さ形容したらい／＼だらうか、丁度母が子をみる様な親しみ云はうか力づよさ云はふか何さも云へない底深いゆるがせに出来ぬ感情が湧いて来るのだ。

明後日はいよく三月三日、今日の中にお子さん方さ



大阪市 御津幼稚園保母

宮 本 光 代

一ヶ年の修業を終へて盛り上る希望さ高い理想を胸に抱いて大阪の地に参りましたのも、もう彼此一年近くになります。今其の跡を省みまして感ずる儘を少し書かせて頂きます。

學校を卒業しますればからは一人前の保母として世に出るのだと思ふ喜びの中にも内心全く不安で堪りませんでした。今の此の私の力で三十人、四十人もの子供を一體

緒にお雛段を作つて飾りませう。

お雛菓子は何に仕様かしら、お花はみんなのを活け様かしら……こんな事を考へて、自分でも不思議な程、お子さん方にもまけない程の嬉しさが湧いて来る、何で斯んなに嬉しいのかしらさ考へながらも一人で嬉しさがこみ上げて来る、そして例へ少しの時間でも斯の様な嬉こびに浸つて居る事の出来る幸福をつく／＼身に沁みて感じずには居られないのだ。

さうして行かれるかしら、斯うした不安さは私のみならず友達同志の間にも良く話題に上つたのであります。僅か一ヶ年の實習を以て既にこみ足れりまして人を教へる位置に立ち先生と呼ばれる身さなるには我乍らあまり無鐵砲過ぎる面恥い様な氣が致しました。兎に角無事卒業も終へた私達は、お互に最善の努力を拂つて理想の實現に努めませうさ確く握手を交してお別れして來たのですが、其の後は

お互に忙しさに追はれて、疎遠になつて居ります。皆様お元氣でお勤めになつて居られるのでせうか。

此方へ参りましたが暫くの間私はお手傳ひをしてお世話になつて居りましたが先づ一日も早く此の大阪の土地に幼稚園の様子を知ることに努めました。然し私の居ります幼稚園は場所に於いて環境に於いて保育方法に於いて私の要求して居たもの理想に描いてゐたものとすつと違つた物でした。少なからず失望落膽致しましたが又之でこそ働き甲斐もあるのだと思ひました。

九月から就任致しまして最年少組を預ることになりました。此處に始めて自分の子供云ふのが出来、自分の保育室をあてがはれた時は今迄に無い異様な心の緊張と責任の重さを強く感じまして及ばず乍ら三十名の幼児の母親としての私の勢一溢の生活を過して参りました。朝夕の往歸りも夜寝る時も頭の中は子供のことで一溢でございます。然し何かにつけて全く未経験の不來者に取つて其の間に色々の不都合が起つて來ました。自分は一生懸命に努めてゐる積りでも矢張り抜けてゐる所があるのでせうか、子供は仲々

思ふ様に云ふことを聞いてくれません。子供の間に淺い溝の様なものがあつて何もなく親しみ切れないで逃げて行かれる時等情なく思ひました。自分の苦勞に比べて他の保姆先生方は如何にも朗らかに何の苦もなくやり遂げてゐるつしやるのが寧ろ不思議で堪らない程で、何か保育の神祕力。云ふに云はれぬ保育の味云ふものが何處か私の見付け出すことの出来ぬ所に隠されてゐる様に思ひました。或る時は私の言葉の差違が兩者の隔りをつくる原因をなすのかも考へました。地方々々の方言やアクセントの違ひ殊に言葉と言葉の直接交渉に依つて心の濃やかさを示し合ふ保育に於いては確かに注意すべきことと思ひます。夫れにしても子供の躰け方、個性尊重、服従性、創始性、教師の威厳と親切等から起つて來る取扱ひ上の矛盾は果してどう解決をつければよいのでせうか。

私は何よりも、自分の無能、智識の貧弱さを感じたのです。今までは唯保育の皮相を瞥見したに過ぎないので、子供等から「先生は幼稚園のお母様よ」と云はれるに備ふる何の資格も持つて居ませんでした。私は自分の勉強の足り

なから省みましても、少しも早く保姆養成所を二年制度に改良して頂き度く諸先生方の御盡力をお願いする者でございます。足らぬ智識が少しでも補はれる様にこそ後は出来るだけ時間をあけては本讀むことに致して居ります。月々送つて頂きます幼児の教育は最も楽しみの一つでございますし、市の當局でも屢々保姆の講習會を開いて頂きますのも嬉しいことでございます。

樂器の練習も又人一倍遅れて居りました。此方では毎朝會集を致しますが其時に歌はせませう年長年少の唱歌は總て譜面を見ずに弾くことになつて居ります。勿論戲遊唱歌其他の場合に其の場になつて慌てゝ譜面をめぐり出す云ふことは良い事ではありません。が、でも歌詞と歌曲を覚え込む迄には毎日遅く迄餘程の練習をしなくては追付きませんでした。更に「もしリズムミカルに」この園長からの御注意に於いておやであります。又お部屋の裝飾として度々描き替へます黑板畫も畫の下手な私にまつては確かに大きな負擔でした。

就任後暫くして一つの心配は保護者會が開かれたことで

す。最初は父兄に對する氣兼ねは最もわづらはしく感じ、傍で見て居られる時に「先生うちの子はさうでございますか」尋ねに來られる時なごも之れに對してはつきりご答辯すら出来兼ねる始末。然し夫れは誠に無責任なことで親達にして見れば私の様な者でも可愛い子供を預けた先生にして信頼しきつてゐるのですから何處迄も彼等に満足を與へる様な行届いた心遣ひをもつて接近すべき筈です。

その外月が變るに随ひましてお月見とか西市遊びお節句等の行事が此の土地特有の地方色を織り交せて次々催されますので、其度毎に少しも勝手が分らずさうして良いものか心配して小さくなつて居りますがそんな時に先任保姆の親切なお心付けが何よりも有難度く感じられました。日々の仕事も皆様の御指導を受けつゝ遅い乍らにやつこ人並に行くことが出来ます。忙しい間の準備も明日の子供の喜び顔を思ひ浮べるに愉快で堪らず勢も出て來るのでして、大抵は薄暗くなる迄居残つて居ります。

かくして漸く幼稚園の様子にも馴れるにつれて次第に仕事に面白味を覺えて來た時分には又新しい春が廻つて參

りました。思ひ返へせば案外短かゝつた一ケ年でした。今までは之云ふ歩むべき目標も無く唯周囲の變化に心奪はれてゐる者が時の流れに押流されて今日に至つた云ふ様な有様。

此の状態を何時迄も續けて行くならば夫れは死んだ保育士として何等價値無き物に終るかも知れませんが来るべき春を迎へんことを心の準備もなり自分の歩むべき道を開いて行く一つの燈もなればこの一ケ年も決して無駄ではなかつたでせう。就任當時に、淺薄な考へで以て否定してゐた保育方法が、今では肯定へこ進み得たのも、又一ケ年の經驗の賜です。即ちこの幼稚園には此の場所と環境に適した保育方法があるのであつて、廣い意味に於いて、決して何れが良くて何れが舊い主義だなんて云ふことは云ひ得ないと思ひます。幼児をより良きものに育て上げ様とする目的は

皆一つです。只各々が持つてゐる高き理想を實現する爲には廣汎な智識と聰明な判断によつて常に新しい眼で自分を見直して行かなくてはなりませんまい。私の最も痛感致して居りますのは、先づ何よりも現在の小學校殊に低學年の改制の必要であります。幼稚園は切るに切れない密接な關係のある小學校が目覺めて幼稚園に接觸して來てこそ始めて幼児教育改良の道も開け得るのだと思ひます。然し夫れは今の私にはぎうするこも出来ない問題としまして、もつこ手近かな所に幾らでも自分の力を試みるべき仕事を見出し得るでせう。慌しい學期末の後には既に希望多き春が待ち受けて居ります。今に櫻の花が咲き始め野や山が生歡びを擧げる四月もなりましたれば幼稚園でも又多勢の可愛く新入兒を迎へるこまでございませう。

初めて、こちらに奉職致しましてから、もう一年も經つ

て了ひました。幾日、たちましても、來たばかりの様な氣

東京市 朝海幼稚園保婦

桑

富

子

がして、未だに不安な氣持で恐るゝ一日を迎へて居ります。四月以來すつこ此の一年間年少組で、園長先生の御指導のもこに助手をさせて戴いて居ります。それで、何かこお教へ戴けます事が、不安の中にも唯一の心強い事で御座ります。そして其の間に自分が實際に當つて見たすべてがあらたな知識として、頭にきざまれて居ます。

先づ場所は、繁華な都會の中心で、園から一歩出れば、非常に危険の多い所で御座います。幼児は、全體で百八十人あまりが四組になつて居りますから、一組平均四十人あまりで御座います。幼稚園のお庭に云ふものがありませんが、自由遊びは時々公園に出る事もありますが屋内遊びが多う御座います。何しろ狭い屋内で大勢が一緒に遊び、然も幾ら狭くても、子供の潑刺たる元氣には變りありませんから、其の時の雜然たる事。初めて參りました時には、何處かで子供の泣聲がしても、何處で泣いてゐるのか分らず、唯氣がいらゝするばかりで、方々見まはしてゐる様な事さへありました。廣い所で遊ぶよりは、概して一寸した事で、怪我をし易いものです。子供に怪我をさせた時の

實にすまないと思ふ感じを、しみじみ味ひました。それは責任に云ふ事を意識する様になつたからでせう。そして角のある机や椅子等見ても、子供がころんで當つたら、どんなか知らし、恐しい感じが致します。ですから保育の内容容如何に云ふ事よりは寧ろ、一日が怪我も無く、無事に過すに云ふ事で一杯でした。子供の遊びのグループへ自分も入つて共に遊び、其の上怪我の無い様全體の監督が出来れば理想ですが、時には遊びに夢中になつたり、又急に氣がついて、方々見まはしたりに云ふ調子で御座います。

遊び以外の生活に於ては規律の守られてゐる事、つまりすべてがきちんとしてゐる事に感服致しました。日頃園長先生が特に訓育に重きを置いて實際保育を遊ばして居られるあらはれであらうと思ひます。子供ながらも或程度の規律が守られなければ大勢と一緒にの社會生活が出来ない事は勿論ですが、もつこ積極的にそうした氣持を個々の子供に持たせる事が必要であらうと思はれます。運動器具もかなり幾種類もあつて場所の許す限り澤山使用して居ります。そして使ふ度に必ず後は片づけて整頓させますが、勿論先

生々協力してするのですが、それが毎日の事になります。知らず／＼の内に子供の氣持にも込み込んで来る事です。例へばヒル氏の積木等もかなり数が澤山ありますが、いつも大きな箱に組み合せて、綺麗におさめてありまして遊ぶ時には殆ど出して遊びますので、お部屋に入つたり、遊戯をしたりする前には又必ず前の様に箱に納めて整頓致します。

お細工は主として手先の練習を云ふ意味から紙摺、紙貼繋方、キビカラ細工、豆細工、粘土細工等之は年少組で、年長組になればもつこ抵抗の大きなもの、つまりむづかしいものになるわけです。是等を致して居りますが、するものの中々考へつかないで、ぢきに盡きて了つて思案にくれる事もあります。やはり自分に才の無い事はつらい事です。恩物も使つて居りますが、恩物については、未だ／＼勉強して置かなければと思つて居ります。

自由畫の發達が非常に著しく、しかも子供が非常に興味を持つ云ふ點から良い紙で一枚書かせる所を安價なもので何倍も描かせる事は大變良い事だと思ひます。黑板畫は

小さい黑板は、子供が自由に描き、大きい黑板には私共が其の季節のものを描いて置きますが畫面もかなり廣く、度々書きかへるわけですから未だに中々描けません。自分の下手な繪が眼にふれる度に早く消し度い、消すのが待たれました。でも消せば又描くのですから同じわけです。

次は談話について、初めて話しをしました時の感じ。子供は著席したまゝで室中に廣くひろがつてゐる所で教卓の位置から話しますので、かたくなつて了つて仲々思ふ様に話せませんでした。殊に小さい子供は話しを聞き度い云ふ要求は充分ある様ですが、一寸した話手の隙にも、ぢきに外の方に氣がつつて了ひますので隙の多い下手な私共には、子供の氣持をお話に集中させる事に苦心致しました。色々な童話の繪も揃つて居りまして其の繪を見ながら話す即ち繪ばなしも致しますが、之も話の實景が繪によつて、はつきりしますから、子供の興味も深い様です、訓話も時折致しますが之は話としてよりも、寧ろ保姆自身的人格が其のまゝ子供に移る所が多くは無いかと思ひます。

月曜の日等は休日の仕事について話し合ひも致します。之も初めは皆が一緒に云ひ出してつて、反つて鎮めるのに苦心した事等もありました。何時子供から話を要求されても出来る様に二つや三つはいつも用意して置く云ふ事は大事な事でありながら仲々出来ないで、つい必要に迫られて初めて用意する様な次第で御座います。

遊戯についても初めの中は、大抵樂器ばかり弾いて居りましたが、馴れない内は仲々要領がむずかしくて、近頃では時々指導も致しますが、自分が體を充分に動かして及ばずながらもよき手本を示す事は勿論大事な要件ですが、いくら自分が一生懸命に動いて見ても仲々模倣はして呉れません。一寸した説明だの、言葉の使ひ方等がかなり理解を助けるものです。

唱歌も同じく、初めて新しい材料を教へました時、一節づつきつて唱ひながら、一緒に唱つて、と思ひましたら、子供が一寸も、うたつて呉れないで随分困りました。それから、先ず歌詞を何度も口ずさませて、話等も交へ、歌の味を了解してから曲へ云ふ順序で、やつき歌ひ出しま

した。

觀察は庶物話で實物又は標本について、子供に觀察させ足りない所を補つて説明しますが、初めてします時は仲々心配で前もつて動植物の本等、あけて見た事等もありました。自然に恵まれない土地の關係から概して自然物に對する興味もうすぐ、従つて何も知らない様です。土さへ満足に見られない土地の状況ですから、こんな子供達に少しでも自然に親しませる云ふ事は随分困難な事です。お部屋にはいつもコップに一枝でも花を置きたいと思ひます。それは裝飾云ふよりは寧ろ子供のかさくした氣持をうるほす意味で。

次に御食事。子供の一日の生活の中で恐らく一番嬉しいのはお食事です。三年保育の一番小さい子等入園直後からお辨當を持つて参りますが随分手のかゝるものです。

子供が幼稚園がいやになつて休む様になつては如何によき保育をなす云つた所で問題にはならないのですから、馴れ、ば勿論家庭に於ける一人の遊びまゐるで異つた幼稚園に於ける友達遊びの快感を充分に味ふ事は事實ですが、

其處まで達するほんの僅かな時に、少しでもいやにならぬ様、積極的には面白く大勢一緒に遊んであげる云ふ事消極的には手をかけ過ぎると思ふ位先生の親切を盡す事は大事な事であらうと思ひます。

ですから年少組の初め特に食事の時等は手のまはる限りしてあげます。先生は子供と一緒に食事を致しませんで子供の世話を致します。年長組になれば追々食事の前後は子供が手傳つて自分の事は自分で始末し、特に當番が全體のお世話をする云ふ所まで進んで参ります。

食事の時はやはり規律正しく列んで手洗からうがひへ、うがひから支度へこ、きちんと揃つて致しますので狭い所にも大勢でも混雜もせず氣持よくさつさこ運びます。歌を歌つて氣をしづめ、靜かに食事を初めます。子供のお行儀等は食事の時に一番よく分り、そして直せばすぐ直ります。食後も暫くは席に落ちつけて置きますが、子供がさわぎ出してから聞かせて、こめるよりは、さわぐ前に何か落ちついて居られる事に氣を轉換させて置く事が私共の方法一つです。理は此の通りですが實際して見るこ、仲々むづかし

い事です。食器は、お盆は四角なお揃ひの幼稚園のものを使ひ、茶碗こ、箸はやはり幼稚園のもので毎日熱氣消毒をしたものを例外無く使はせて居ります。

順序が大變後になつたわけですが體育に留意し特に衛生方面に重きを置いて居ります點から食器、玩具等嚴重に消毒致して居ります。其の爲めか場所柄又狭い所に大勢居る様な事から傳染病の媒介等容易なわけですが傳染病は殆ど無く、又其の他の病氣も少く、寒い中でも缺席が比較的少い様です。身長體重等も毎月さり出缺の状態等こ合せて毎月家庭に報告致します。

遊びの所で申し落しましたが前にも述べた通り庭はありません。それでほんの僅かな空地を利用して砂場が出来て居ります。まはりはコンクリートでかためてあつて、綺麗な砂がなみくこ盛られてあります。狭いので勿論皆は出られず一組でも一杯ですが、子供は大變によろこびます。ですから一組づゝ代るくゝ入りますから、毎日仲々入れません。砂場にはお部屋で靴下をぬいで支度をして、はだしで入ります。素足で入りますのは體育的にも良く、第一氣持

もよく、よごれる心配もありません。

之も春から夏、秋にかけて、冬の間は勿論出られず公園にも冬の間は風も強く、埃もひさいいで殆き出ませんから遊び場は室内ばかりです。保育上の事は大體以上の様なわけです。

それから運動器具の係をさせて戴いて居りますので毎日運動器具の出入、使用後の整頓調査等致します。仲々気がつきませんで御注意を受けるまでうっかりして居る事等もありました。

小さいものはぎんな狭い所へでも入りますし、丸いものは何處へでも轉つて了ひますから毎日子供が歸つてから調べて見ます。こ一つや二つは見えない時がありますから方々探してピアノの後、臺の下、スチームの後等から出て来た時など本當に嬉しいものです。こうした規律正しい生活は私一個の氣持でも非常に快い事です。

以上の事はまるで異つた立場で處世上の事に關しては之こそ、初めて經驗する所ですが、色々な機會に當つて見ます。要するに人格のふれ合ひですからお互に人格を高め

れば圓滿な生活が出来るのでは無いでせうか。それには先づ自己を高める事が何よりだと思ひます。

それは單に處世上に必要なばかりで無く、子供の保育の上に第一に影響を及ぼす事でありませう。

此の一年間努力致しましたのは早く園の風に馴れ度いき云ふ事で一杯でした。

そして未知の世界から、よきものある事を信じて、それを見出す事に随分苦心致しました、それは決して、こぢついで無く、學校時代、奉職以後も色々お教へ戴いた事を基礎に冷靜な立場から、初めて經驗した數々の中に必ずやよき事を見出し、それをあつかましい事ですが保育の方法でも申しませうか、それを方法として教育の高き理想に向つて第一歩を強くふみしめ度いと思ひます。

さらに進歩して行く教育の爲にも取残されぬ様讀書も怠らず不斷の努力を続け度いものです。そして現在奉職致して居ります幼稚園の爲めに少しでもお役にたてば此の上も無いよろこびで御座います。

新園寄せがき帖

五四

○その一……………倉 橋 生

一、「もしく、こちらは大塚のお茶の水幼稚園ですが、
…こんな電話が當分の間つゞいた。

一、あの立派な新園舎へ移るやうになつたら、私達も、
よつほぎ新式な服装をしなけりやならないでせうか。――
バラック住る時代に、職員室でこんな聲を聞いたことがあ
るやうなので、如何なることにやなるらんき、そつミ氣を
つけて見てゐたが(?)、別段氣取り出した人も、新化した
人もない。

一、冬になるミ、咽喉をいためては、ちよいくお休
みをした年寄(幼稚園で一番の年寄)が、今年は一度も休まな
い。床板の古くなつたバラックミ違つて、ほこりが立たな
い爲らしい。塵埃のないのは年寄ののぎにいゝ以上に幼児
ののぎにいゝに相違ない。

一、公園の中へ建てたのでないから、建物が先きになつ
て、庭が後になるのは仕方がないが、自然味のある庭はそ
うに、わかには出来ない。これが目下の苦心。以前からある櫻
の古木が、佗しさうに春を迎へてゐるだけで、若々しい木
の芽も、草の花もない。蝶でも來たら何んミ言譯したら
いゝかと思ふばかりだ。蝶は、ほかへ行つて呉れるからいゝ
やうなものゝ、幼児にはほんさうに濟まない。たゞまあ、
毎日こゝうして大勢の人夫ミ植木職ミの手で、一日々々ミ出
來上つてゆく庭の形ミ、次々に植ゑられてゆく樹木ミを見
て楽しんで呉れ。「園丁雜感」の著者が、此頃では字義通り
の園丁雜感で毎日苦勞してゐる仕末だから。

一、保育室の傍に小さな平たい地面がくつつけてあるだ
けでいゝのなら事はらくだが、幼稚園ミしては、園の中に

建物があるのでないさほんさうでない。さころで此の可なり小さくない鐵筋コンクリート化粧煉瓦の建築を、その一部分さして取り込むやうに此庭を造ることは骨が折れる。東京女子高等師範學校の全敷地が幼稚園で、その中に此の建物だけがあるのであつたら、森に圍まれ、丘を越へて、小川を渡つて、牧場を彼方に、池を隔て、その中の綠園の一隅に此の建物を大して目立たないやうに置くこゝが出来て来るであらう。——庭の設計の青寫眞を見つめながら、「森の幼稚園」の作者は、さうさころさころな妄想に入る。

一、石川隆治氏の特別の好意を煩はした「玩具の仔熊を抱いてゐる女の子」のブロンズが出来上つて、遊戯室に飾られたのは嬉しい。震災前のお茶の水幼稚園舎を、繪畫、彫刻も一流の立派な作品で一ぱいに飾つて、小さい美術館のやうにしたいさ思つてゐた慾望は、ブラックになつてから一時休止してゐるが、それを再興したいものださ願つてゐる。たゞ何十年、何百年、何千年かゝるこゝさ知らない。

一、新園舎を訪ねて來られた人が、全體の色調に就てはめて下さるのは少々得意である。彫刻の石川さんも、繪畫

の石井柏亭さんも、これはいさ言はれた。久留島武彦さんも大層氣に入つたさうで、新築内祝ひの時さきも達へのお話の前置きの中で、こゝの色はさけ茶色ですね、こゝの色は、同じ茶色だがさしうすい。皆さん、ほんさいさいふ色でせうねさ、例のやはらかいバスで笑ひながら問ひ試みられた位である。するさ一人の男の子が速座に答へて呉れた答へが嬉しい。「茶さう色」。

淺草寺社會事業部に

兒童教育相談所開設

それさ、斯界の權威者を聘して一般健康上の相談、就中精神發育に關係の深い既往並びに現在の神經系統の審査、智能性格の検査等、身體精神兩方面の相談に應じ、又必要の場合は兒童を一定期間預り教育の實際も引受けるさ。

場所 淺草公園觀音堂裏婦人會館内

相談日 毎週土曜日の午後一時より四時迄

新入園児の保育衛生

東京市兒童掛長 醫學博士 廣 瀨 興

新年度開園に當り、一般園児の身體検査を特に行ふべきは勿論であるが、新入園児の身體検査は特に嚴重に行ひ、在園児への傳染、悪影響を防ぎ且つ新入園児の將來の保健、健康増進の方針を樹立するに必要である。身體検査に當つては種々の注意を要するであらふが特に次の如きは肝要なる事項である。

(イ) 重い百日咳を経過せる者

之は普通の経過をこつたものは別に何等の注意も要せぬが重症で肺炎等を併發せるものはよく結核等の後發症を殘し、一見普通児に變らぬが斯くの如き幼児が團體生活等に於て幾分無理をするに始めて潜伏せる結核症狀を現すことがある。

(ロ) 平素微熱を出すこゝある者

平素運動後、食後、夕刻等に三十七度さか三十七度一分

二分位の微熱を發する小兒は入園は望しくない。之は新入園児の體温を數日測定し家庭にても氣付かざる中に發見するこゝがある。

(ハ) 一見體質の虚弱の者

顔色蒼白、一見虚弱の小兒は特に潜伏結核の有無を確かめねばならぬ。體温の一週間連續測定、レントゲン胸部検査も肝要であらう。若し肺門淋巴腺腫脹の如きものがあつて所謂虚弱兒であつても別に發熱もせず、食慾もあり、元氣であるなれば平素注意して保育するなれば却つて強健なる場合がある。

適當の規則正しい運動、食事等が効果を來すのであらう。

(ニ) 平素偏食のあるもの

食餌に好き嫌ひの習慣のあるものは特に注意を要する。最も氣付くのは味噌汁を嫌ふ小兒であるが多くは體質弱く

體組織を構成する養素であり、猶、之等の食品は必要のビタミンA、Dを同伴してゐるものが多いからである。

之等の小兒には家庭に連絡して現在食品の中好むもの例へば混ぜ御飯の中に挽き肉こが魚肉のオボロこかを混入せしめ、幼稚園にてダマシツスカシツして與へるときは旬日ならずして矯正せられるのである。

好き嫌ひは元來、精神的のものであつて、大人は牛肉を見て食欲を催すのが普通であるが小兒は直ぐ野原や、牛小屋の中のあの獐猛な牛を思ひ出すのである。又形、色、臭ひに敏感であるから注意して作りかへて與へて見るのも必要である。

幼稚園、託兒所時代の一般小兒の身體検査上多數の虚弱兒を發見するがその大部分は上中下全階級を通じて、偏食兒の多いことである。下層階級であれば母親の無智のため、日々、小使錢を多額に與へ菓子類を攝つて必要量の榮養食品を攝らず遂に偏食する場合、上流であればある様に我儘や下女まかせのためか甚しい好き嫌ひを來して居るものである。

この時期の偏食を矯正し得たことすれば幼稚園保育の最大の收穫であつたこと云つて過言でない。次に合理的の榮養品の組み合表を上げて献立の参考とせしやう。之等の成分の一部を缺乏してもそれに相應した疾病を來すものである。

(ホ)眼の充血を來し易き者

トラホームを患える小兒も家庭で案外見逃し且つ醫師の検査の時も極く輕微のものや、結膜の部位によつて發見せられなかつたものがある。入園生活によつて慢性のものが現れて來るから注意を要す。便所の手拭は特に清潔にした。猶、一般小兒に對してもホコリの甚しき日の保育後、洗眼(二%硼酸水にビタ〜に浸した脱脂綿にてよく拭ふ程度にても效がある)するはよいことである。

幼兒の近視、色盲は早く發見せねばならない。知能發育に重要な影響を及すものである。

(ハ)鼻孔のタ〜れた者

一般に小兒は鼻汁分泌多く所謂鼻タラシであるが殊に扁桃腺やアデノイドのものに甚しく、鼻孔の入口が常にタ〜レ、不隨意に指尖を鼻孔に入れたり、爪をかんだりする習

慣のものによく蛔蟲等の腸寄生蟲を有するものがあるから
 検便を要する。驅蟲には蛔蟲にはサントニン、マクニン等
 であるが蟯蟲にはこれ等藥品の内服と同時に爪をよく切つ
 て清潔にし、二倍の食醋水の灌腸(約一週間就寢前連續持
 長のこじ)、灰白軟膏の肛門塗布を行はねばならぬ。蟯蟲保
 有兒は他兒に易く傳染せしめるものであるから等閑に附し
 てはならない。又肝油の如きものを服用せしめるに蛔蟲、
 十二指腸蟲等の感染に對して抵抗力を強める云はれてゐ
 る。之はヴェタミンAの效力である。

(ト) 齶齒のある者

幼兒期六歲頃に俗に六歲臼齒と稱する第一小白齒が發生
 するもので之は永久齒であるから特に大切にすべきでその
 生齒の方向にも注意を拂つてやらねばならない。猶、乳齒
 はこの時期に抜け更る故、適當の時に殘存乳齒を抜き、次
 に生ずる永久齒の發生をさまざまに注意すること。食
 餌に新鮮の野菜、貝、エビ、海藻、鱈、鯨等が必要でこの
 頃の食餌が將來、齒の保健に特に關係を持つてゐるもの
 ある。

本邦小兒發育標準値

年 齡	身長(櫃)		體重(斤)		頭圍(櫃)		胸圍(櫃)	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1½年(1年1日以上—2年迄の平均)	77.7	76.2	10.11	9.46	46.8	45.4	46.7	45.5
2½年(1½年及2½年の平均値の平均)	81.3	80.2	11.02	10.40	47.3	46.0	47.6	46.2
2½年(均以下之ニ準ス)	85.0	84.0	11.92	11.35	47.8	46.7	48.4	47.0
3	88.5	87.2	12.73	12.16	48.2	47.2	49.3	48.0
3½	91.9	90.5	13.55	12.97	48.7	47.6	50.1	48.8
4	94.7	93.6	14.27	13.73	48.9	48.2	51.1	49.4
4½	97.5	96.7	14.99	14.50	49.2	48.6	52.0	50.0
5	100.3	99.5	15.65	15.21	49.6	49.0	52.9	50.7
5½	103.2	102.4	16.32	15.92	50.0	49.4	53.8	51.4
6	105.6	104.6	17.05	16.56	50.3	49.6	53.9	52.0
6½	108.0	106.9	17.80	17.20	50.6	49.8	54.1	52.5
7	110.4	109.3	18.70	18.05	50.8	50.1	55.1	53.4
7½	112.8	111.6	19.60	18.90	50.9	50.2	56.1	54.2
8	115.3	113.9	20.65	19.85	51.1	50.4	57.1	55.1

(壬) 順調なる發育

小兒の體格の大小は先天的のものがあからそのみにて體質、發育の如何は定められぬもので日々の増加、月々の發育が大切の目安となる。體重、身長、胸圍、出來れば坐高の測定も是非必要である。日本の幼兒期の發育標準値(東大小兒科編)は次の如くで、月々の増加をよく參考するところが大切である。

猶、急に御行儀の悪くなつた兒(足をなげ出したり、體をゆすぶつたり、落付がない兒に小兒舞蹈病の初期を發見した等の場合もある。要するに以上は開園期に際しての一般注意であるが入園當初、個々の小兒に付いて周到の注意を拂ひ家庭と連絡をこつて何等かの身體上の變化の有無に注意してその原因を確かめ將來の保健上の方針を樹てるべきが最も肝要である(終り)。

第七回乳幼兒愛護週間

逐年盛大になり行く乳幼兒愛護週間は今年も第七回。五月二日から八日にわたつて催されます。本年も大いに本旨の普及徹底を期し意義あらしめたいものであります。

少子部祭

日本童話聯盟保育研究部主催

日比谷公園内市政講堂において

四月二十三日午前九時より十時半迄

「お子を集めてまるれ」に仰せられた雄略天皇のお言葉を、養蠶は思はずに、町の子供を集めて来たさいふ「すがる」、そのために天子様から少子部名を賜つてその子達を育てた、さいふ話は軽い笑ひを以て讀み來つたものでありますが、これは彼の兒童愛の然らしむるまごころ、東洋の古き大保育家なりまして、これが丁度今の陽春四月の出來事に當るのでこの祭典が催されます。

金太郎のおもちや

及川ふみ

畫用紙八ツ切に別圖金太郎を謄寫して

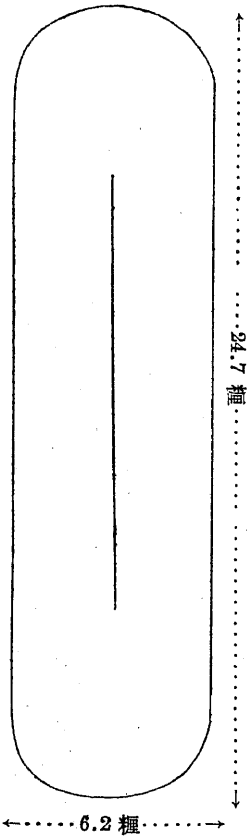
一、金太郎

からだはうす桃色に、胸あては青地に、金の字は黄色に
紐は赤にそれ／＼色をつける。

まさかりの柄は茶色にぬつて刃先のところは薄あをくし
てあごは黒くぬる。

一、熊は墨で黒くぬるか、クレオンで黒くしてもいづれに
てもよい。

胸のところは月の輪を白くのごしておく。



熊の足の下の切りこみはボール紙の臺紙の裏の方につき
出して左右に交互にひらいてはり付ける。

ボールの臺紙は出来るだけ厚いものがよい。左圖の通り
形を切りこつて机の角なぎでだまし／＼まるくまける。

臺紙は綠色にぬる。

このおもちやはベニヤ板や、ボール紙なぎでつくつても

よい。その時は臺につけるのに少し工夫をしなければなら
ない。

又この動躍する臺の代りに前後に四つの車をつけて引ば

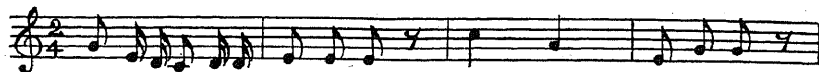
る様にしてもよい。

熊の首に紐をつけて金太郎さんが手
づなをもつてゐる様につくる。

やねの上の雀

葛原 菫 作歌
梁 田 貞 作曲

♩=88



1. ナ ネノウヘノ スズメ チユン チユン ナクヨ

2. やねのうへの すずめ ビヨン ビヨン よべよ



ナネノシモ トケタラウ ヒハモウ タカイゾ

わたのやうに やはらかさう いつまで ふくれてる

屋根の上の雀

土川 五郎振

一、やねの……拍手一回

うへの……両手掌下にして左右に開き右足を後ろに引き右上をのぞく

すず……拍手一回

め……左足を引き両手を開きて左上をのぞく

チユン……両手を左右を開き少しくさける時左右生顔を合はす

チユン……両手を少し上にあけて直ちに下ぐる時に反対の隣生顔を合はす

なげよ……右足一步前に両手にて羽ばたきしつゝ左足をあげ右足にて三回跳ぶ

やねのしも……左向き左足を出し両手を頭上に高く合はせて直ちに左右下に八形に開き上を見る「しも」は其まゝ静止して上を見つめる

さけたらう……廻れ右して反対に向き同じく両手を上より左右に開

き「らう」は静止して上を見る

ひはもう……兩翼を柔かに微動させつゝ右上を見て二回にかゞむ

たかい……拍手一回

ぞ……兩足を揃へて立つ時食指を體前右方にて眞上につきあけて上を見る

二、やねの上のすずめ……第一に同じ

ピヨン……兩手を左右に開きて一足ミびに左に跳ぶ

ピヨン……其まゝ静止

さぶよ……右へ跳ぶ

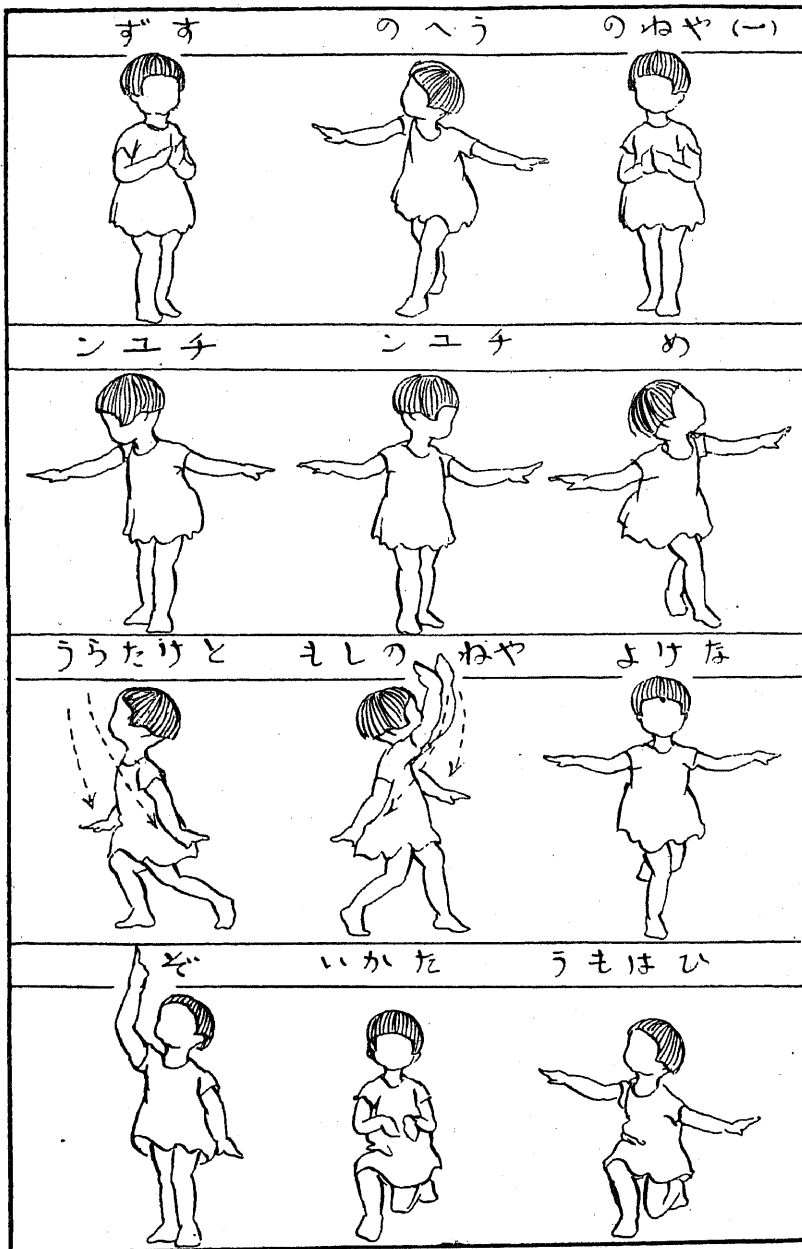
わたのやうに……兩手を前に高くあげこれを兩側に開きつゝ丸く下にてまきめる

やはらかさう……兩手を柔かに上下しつゝ左右に開く

いつまで……拍手二回かゞむ

ふくれて……兩手先を兩側腰の邊につけ掌を内側に兩肱を張りて丸味をつける

る……肩と頸をちぢめる

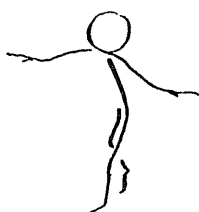
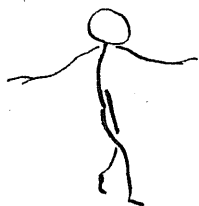


め

すす

のへう

のねや(=)



よべと

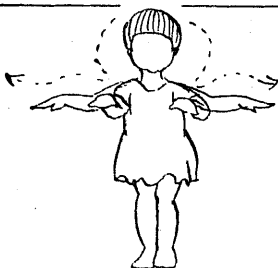
ンヨピ°ンヨピ°



でまつい

うさからはや

にうやのたわ



る

てれくふ



SINKITI

講話「いろくの子ども」Ⅲ

倉橋惣三

氣の鈍い子

(二)

子供の世界は活潑に元氣に色々なこゝに心を働かして居るのが特色であります。時によるささうでないお子さんがあります。勿論其非常に甚しいのになるに白痴さか極度の低能児さか云ふこゝになります。それは私の今度お話しやうとする問題の外に置きます。それ程甚しくなく普通のお子さんで、さうも他のお子さんに較べるに何さなく總てが鈍い、傍で見て居つてもさんよりしたやうなぼんやりしたやうなお子さんがあります。斯う云ふお子さんは詰り色々のこゝに付て興味がないのであります。何事が起つてもさうも何が面白くないのかボーンと平氣なやうな風をして居ります。傍から見ても洵に詰らない、氣の抜けたやう

な氣が致しますが、子供自身さしても甚だ詰らないものであるやうに見られる。斯う云ふ子供は單に物事が面白くない、他の子供が次から次へに色々面白い生活に生きて居る中に、其子一人はぼんやりと暮らして居るに云ふ事だけでも洵に氣の毒であります。殊に子供は周圍から絶え間なく色々な事を學んで行かなければならぬ、其學ぶには外から突ついて教へ込まれて習ふものではないのであります。自ら興味を以て外に働きかけて行くのでなければ本統の智慧は増しませぬ。斯う云ふ子供は其働きかけて行く興味が少ないので自然智慧にも遅れて來るやうな不幸があらうと思ひます。幼稚園や學校などで大勢の子供の中に斯う云ふ子供が二三人居るに、實にもさかしくなる程其子供の生活に力がない、傍で見て居つてさうかして之を働かして總ての事に面白くしてやらうと思ひましても、さうもそ

れに鋭く反響して來ないのであります。勿論斯う云ふ子供はさちらかき云へば人の好い穩かな性質の子供が多いのでありまして、尙更周圍の者としてはいぢらしくなる譯であります。

そこで斯う云ふ子供は要するに興味がないのでありますから、斯う云ふ子供の心持を理解するには興味云ふものは一體さう云ふものであるか云ふことを考へなければならぬ。興味云ふのは勿論外にあるものに反應して行く働きでありますが、近來の解釋に依るに唯外から引出されて來るこまばかりではないのであります。寧ろ子供として其心の中に有つて居る所の自然の欲求要求、さう云ふものが外にあるものに合して來て、そこに色々の興味が出るのであります。或る學者は興味とは恰度活潑な食欲を有つて居る者が飢を感じるやうなものだき申して居ります。即ち健康體は絶えず榮養を取らなければならぬ働きをして居る。其時に空腹を感じるに其空腹に基いて盛んなる食欲が起ります。それと同じやうに健康なる精神は自ら其心を養ふ爲に色々なものを外から取るやうに要求して居る。それ

が與へられないこ内から精神上の食欲が活潑に動き出して來るのであります。そこで大人が面白いものは面白い云ふやうな、そんな冷淡なこまでなくして、有ゆるものに興味を働きかけて行く云ふ言葉が適當であります。興味云ふものをさう云ふ風に考へて見るに、其興味の缺けて居る子供云ふのは、詰り精神の欲求力が鈍いのであります。其心の中に色々なものを要求して行く力が足りないのであります。そこで其興味を誘ふ爲には其鈍い要求力を刺戟してそれを強めて行かなければならぬ。所で甚だ通俗過ぎたお話をするやうでありますが、吾々の食欲云ふものはさうして活潑に起るかき申せば、勿論元來は本能でありませうけれども、吾々が食物のうまい味を知つて居るに段々其うまいものが欲しくなるに同様に、一度知識の興味を味つた者は次々に面白い其知識を要求して來る云ふ關係になります。又一面に吾々の食欲は吾々の運動活動に依つて從來ある所のものを消化した後で起るのであります。消化する力が弱ければ少しかりのものが腹の中に停滞して更に新しいものを求める云ふこまがない。之に反してグング

ン消化して行く者は次々に要求を加へて来る。消化は身體の運動又は消化器の活動に依つて起るものでありませうが、同様に精神上の活動精神上の運動、其活きくした活動がないミ矢張り次から次へミ求めて行くことが出来ないものであります。或る種類の子供は少しばかり習ひ覺えた其知識を胃の中にもちこたへて居るやうな、詰り停滞して居るやうな、直きに飽和してしまふやうな状態になつて居ります。そこでさう云ふ子供の精神には絶えず面白いものが世の中に澤山あるミ云ふ經驗を味はせ同時に次から次へ其精神を活動さして飽和しないやうにして行かなければならないのであります。

二二

そこで大體さう云ふ解釋を致して置きまして、倍少し違つた方から見て参りますミ、總て子供の色々な性質は其體質、體の關係に大いに影響するこゝは勿論申すまでもありません。先號に考へて参りました色々な子供も皆其身體的原因が大いに關係致して居るのであります、而も今日考へて居る此氣の鈍い子供ミ云ふのは殊更身體的影響が多

いやうであります。例へば體が全體ミして健康を失つて居る、何處に原因があるのか私共素人には判りませぬが、全體ミして身體の健康力が虚弱であるミ云ふやうな場合には、其子供は矢張り氣重にも鈍くなるものであります。或は又極く一時的なこゝミしても睡眠の不足ミ云ふやうなこゝミは非常に斯う云ふこゝミに關係して来る。私共が時に幼稚園や學校なぎに於て甚ださんよりした顔付をして居る氣の抜けたやうな子供に會ひまして、なぜ斯う云ふ風だらうかこゝ色々調べて見るミ、其子供の家庭生活に於て睡眠上の非常な不規則或は缺乏ミ云ふやうなこゝミが原因して居るこゝミを發見する事があります。吾々でも睡眠不足の後は氣が鈍いのであります、殊に子供の場合には知らず識らずの間にそれが蓄積して慢性的に睡眠不足の状態を生ずる。さう云ふ場合には實に晝間の生活が鈍くなつてしまふ。のみならず其子供の精神性格全體にさう云ふ傾向を付けるミ云ふこゝミもあります。或は又私共専門外でよく判りませぬが、例へば扁桃腺が悪いミか或は鼻の中に腺狀殖生が出来て居るミ云ふやうな場合には著しく斯う云ふ状態になるやうで

あります。さうしてこんなに氣が鈍いのであらうか云ふ譯で、それ／＼の専門のお醫者さんに御相談致しまして、一寸した手術に依つて其扁桃腺を除いて戴く或は鼻の中の腺狀殖生を除いて戴く、さう云ふ風な一寸した手術に依つて見違へた程活き／＼した活潑な子供に變るゝことが洵に珍しくないであります。こんなことで子供がよくなるものならば、私共は實に其點に注意をしなければならぬ。一寸した注意で以て我子の性格が明るくなり晴れやかになり面白くなり活き／＼して来る云ふのでありますならば、其子供の現在の幸福の爲にも將來の發達の爲にも、總て子供の身體の注意に付てそれ／＼専門家に御相談をする必要が屢々あります。

(三)

併ながら單に斯う云ふ生理的の或は身體的原因ばかりではない。其子供の境遇が斯う云ふことに關係して來るゝことがあります。一概にも申せませぬが、其家庭生活が甚だ單調乃至生活其ものゝ空氣が鈍い云ふやうな場合に於て、其子供の心がさう云ふことになるのは免れないことで

あります。家庭生活の單調云ふことは、さう云ふ意味が甚だ判りにくい言葉を使ひましたが、私共が注意しなければならぬ簡單な一つの場合を申上げて見るゝ、或る種類の家庭に於ては大人が悉くむつつりした、大人同志の生活が極めて面白くなく行はれて居る場合があります。さう云ふことは想像して見ても不愉快なことでありますが、家族同志が殆ど朝から晩まで一言も口をきゝ合はない、朗らかな笑聲が其家庭に起らない、お父さんもお母さんも、又隣居所の方でも何だか重苦しい空氣に互が隔てられて居る云ふやうな家庭がある。古い御家庭或は何か特別な御事情のある御家庭にさう云ふことを屢々見るのであります。それは其御家庭として色々理由のあることでありませうが、さう云ふ空氣が其中に育つて居る子供に對して如何に悪い影響を與へるか、是は大なる問題になります。さう云ふ家庭の空氣が所謂子供の道德的發達の上に多くの害を與へる云ふことは申すまでもないことでありますが、是は今私の問題の少し圈外のこゝとして、單に子供の心が絶え間なく働き動く云ふだけの意味に於て、斯う云ふ家庭は甚だ

不利なのであります。恰度新鮮なる空氣の流通して居る、明けはなれた窓の多い部屋の中に居る者は自ら快活になり、空氣のぎんよりした重たるい其中に居る者は精神が鈍くなる云ふことは誰も知つて居ることであります。況して人間的に醸し出される所の其鈍い沈滞した家庭の空氣云ふものは子供の斯う云ふ傾向を屢々助長するのであります、或は又是少し變つて大人同志は勿論そんなに苦蟲を潰しては居ない、併ながら總て其家庭の生活は大人本位で子供の存在に付て周到な注意を拂はない、其處で大人は大人同志色々な生活を致して居りますけれども、有らゆる問題に對する見方も話題も、總てが子供の精神を刺戟して行くやうな性質のものでないのであります。さう云ふ時に其子供は折角大勢の家族の中に居りながら自分に適する世界を其處に有ち得ない。斯う云ふ場合には全く人の居ない荒野にでも居る場合と同じやうなことになる。のみならず其一人の世界に若し居りましたならば、其處で又自ら色々なものを求め出して來るでありませうが、人が居りながら自分とは無交渉に總てが行はれて行く云ふやうなこ

は、精神の活動に對して洵に有害な結果を來するのであります。子供を少しも構はない家庭に於て實に詰らなさうに日を送つて居る子供を見るに、私共は單に子供が可哀さう云ふやうな感情的なこまばかりでなく、其子供の性格を傍から育て、行く力の缺けて居るこまを歎かはしく思ひます。斯う云ふ原因が色々相俟つて其子供をさう云ふ風にすると思ひます。

(四)

偕斯う云ふ重苦しい鈍い子供は知識の上に於て多分遅れて居ります。必ず云申しても宜い程遅れて居りますが、中には外から見て極めて鈍さうであつて實は心の中で動き働いて居る子供もあります。或は天才的な片寄つた子供、或は特別に重厚な、所謂膽汁質粘液質云ふやうな子供であるに、心の中は其ものこして動いて居つて、見かけだけが鈍い云ふこまもないではない。さう云ふ場合は唯外側が賑かで快活であるよりも本統の値打があるのかも知れませぬ。けれどもさう云ふ風な子供は寧ろ例外で、一般としては矢張り子供は子供らしい快活さを以て生長さして行き

たいのであります。又其外見が鈍くて心の中は働いて居る
こ云ふやうな子供でも、其點に於ては將來必ずしも憂ふべ
きこころでないかも知れませぬ。大いに大成するかも知れま
せぬ。けれども時に依るこ子供の時を快活に過せない爲に
人生の晴れやかな、心持の良い生活の味ひも云ふものを得
ずに終るこころもあります。即ち知識的に申せば必ずしも快
活な子供でなければならぬこ云ふ譯ではないけれども、私
の最も心配するのは斯う云ふ外のこころに付てさんよりさし
た、自分こ其問題この間に始終薄皮を一枚置いたやうな疊
つたさんよりした生活をして居る者は時に單に物事に對し
てさう云ふ状態であるばかりでなく、人間的に無感覺無感
興無感激さ云ふやうなこころが起るのであります。私は時々
さう云ふ子供を見て、人間界に共に暮らして居りながら傍
の人の心持に對して何等共に感ずるの鋭敏さなく、傍の人の
の氣持に依つて或は喜び或は悲み、自分の心をも激さして
行くこ云ふやうなこころのない其子供の生活を實に人間性の
教育の爲に甚だ困るこころだと思ひます。人間性の生活とし
ては色々激し過ぎて過ちもありませう。或は餘計な同情を

有ち過ぎて過ちもありませう。感情の狂ひ過ちこ云ふもの
は大いに氣を付けねばならぬこころであります。それより
ももつこ困るこころは人間的冷淡、即ち周圍の人の感情生活
に對して何等の感激を起さないこころであります。石像の如
き木像の如き、泥で拵へた人形の如き、さう云ふ生活を續
けるこころは實に人間としての本統の生活を發達せしむる所
以でないと思ひます。學校なきで斯う云ふ種類の子供が或
は他の氣のきいた子供よりも時に出來が悪いこ云ふ位なこ
ころは私共そんなに問題にしないけれども、傍の人或は親先
生或は友達の自分に對して有つて呉れる所の好意其ものに
對してさへも極めて無感覺にころんこあつけらかんこして
暮らして居るやうな状態を見るこ、實に困つたこころだと思
ひます。即ち氣の鈍い子供こ云ふのが單に知識的意味だけ
に止まるならば、私共はそれ程深く此問題を考へないけれ
ども、人間的無感覺さ云ふやうな所にまで行く場合を考へ
るこ、實に心配になります。

そこで斯う云ふ種類の子供があつたならば、之を如何に
して教育して行くか、之に付ては繰返して申すやうであり

ますが、先づ第一に健康に就て餘程細かに注意しなくてはならぬ。是も素人流の判断では付かない細かい内部的の原因があつたり致しますから、専門家に周密な診断を請はなければなりません。其上に周圍から絶え間なく其知識的興味を刺戟して行きまして、色々世の中に面白いところがある。色々珍しいところがある云ふやうなことを絶えず傍から経験させるやうにし向けなくてはならぬ。子供の教育に就ての近來の學說に依るに、餘り傍らから色々なことをしない方が宜い云ふことになつて居る。子供自からの所謂自發性を基としてそれに此方から其要求に應じて何かして行けば宜い云ふのでありますが、それは健全なる活潑なる精神を有つて居る子供に對して言ふのであつて、斯う云ふ鈍い子に對しては其自發性其ものを引出してやることに非常な努力をしなければならぬ。時に依るに子供の自發性を尊重するに云ふ、所謂新教育手段を執つて居る教場などで斯う云ふ鈍い子供の一人二人が何時でも置き去りにされて居るやうな悲しい場面を見ることもないのではないのであります。是は單に健全なる精神の子供を標準として、斯う云ふ

子供に對する特殊の取扱ひを忘れて居るので、是が甚だしくなつて白痴とか低能兒さかになれば、又是によく氣を付けるのであります。其處までは行かない輕い度に於ける精神の鈍い子供に對しては見落されたりするのは洵に遺憾であります。家庭に於ても斯う云ふ子供の爲めには普通の子供よりも或は面白い所へ連れて行くとか或は面白い物を與へてやるさか、さう云ふ積極的に引張つて行く所の手段に力を盡さなければならぬ。大人が子供に對して無暗に干渉することは悪いことでもありますけれども、興味を養ふ上に十分の膳立をしてやることは幾らしてもし過ぎないと思ひます。尙ほ又前に申した其精神的に人間的反應が鈍い云ふやうな傾向のある子供に對しては特に注意して行かなければならぬ。之に對しては特にさうするに云ふ難しい方法もないやうに思ひますが、私が極めて平凡にして然も極めて効果のある一つの方法を考へて居ります。方法に云つて吹聴する程のことはありませぬが、詰りさう云ふ子供に對しては大人が努めて話かけるのであります。或は話かけて其子供の話を聞いてやるのであります。言ひ換へれば

子供ミ大人ミの個人的對話を屢々するのであります。多くの場合に於て家庭なごで子供に向つて色々話をしてやる親は澤山ある。澤山ミ言へないかも知れませぬが、それも随分面倒なごであります。まあそれはする人がないごは言へない。併しながら子供ミ個人的對話をして色々此方の言ふごも言ひ、向ふの話も聞くミ云ふやうなごをしてやる人は意外に少いのであります。殊に其子供が氣のきいた次から次へ奇抜な話でも持出し奇警な觀察を表して來るミ云ふやうな場合に於ては大人も面白く相手になりませんが、今茲で考へて居るやうな鈍い子供は其話もボツリボツリに實にまごろしい話をします。又其言ひ方が何等の生氣激刺たるやうな所もないやうな物の見方感じ言ひ方をするに違ひない。詰り面白くないからさうも其相手になるごが難しい、けれどもさう云ふ子供に對しては何より一番宜いごは何でも相手になつて聞いてやるごであります。鈍い子供ミ雖も鈍いながらに色々な心持が微かに心の底に動くごは屢々あります。或はドン／＼口を突いては出ませぬけれども、物を言ひたけにして居るごもありあります。さう云ふ場合に此方から上手に話かけて行つて其言

はんミするごを十分に引出して聞いてやるミ云ふごは其子を育て働かして行く上に此上もない宜い方法である。思ふ。世の中には大人同志の社交に非常に上手な人がありまして、實に上手に人に話をさして行き、人の話の緒口をほざいて行くミ云ふやうな力のある人がありますが、其力を以て子供に對して働いて行くごは實に宜いごであると思ひます。大した話でなくても宜いのであります。涼み臺の話でも夕食時の話でも散歩の間の話でも、何かしら子供の相手になつて子供の話を次から次へミ引出して、多少詰らないごでも面白さうに聞いてやる。そこに子供は自分の心をぎん／＼出して行く所の生長の機會を與へられると思ひます。斯う云ふ子供は餘程傍から注意しないミ引込思案で、遂には他の兄弟が親に大いに可愛がられて居るに拘らず、さう云ふ子供だけは何時でも何ごもなく除け者にされて居るミ云ふやうな實例もあります。其子を憐み其子を本統に育てたいミ云ふ真心からして、私共は普通の幸福な子供よりも更に數倍の注意を斯う云ふ子供に向けてやりたいと思ひます。

望月神戸幼稚園長の退職

神戸幼稚園長として我が保育界に令名を馳せてゐられた望月クニ女史は、去三月を以て其の職を辭されました。後進に道を譲るためのこころを察せられますが、神戸幼稚園の望月女史でなくなつても、當年六十六歳、尙矍鑠として壯者を凌ぐ元氣は、日本の幼児教育界の望月女史たるここに、何んの變りもありませんまい。殊に女史は、神戸の景勝地諏訪山麓武徳殿の東隣に「愛兒園」幼稚園を創設して、此の二月建築落成し、現にそこに起居して經營に當つてゐられる程で、こころを之れからの本據として一層自由なる活動を、我國保育界に寄與せられるこころを信ぜられます。

女史は明治元年十一月十七日岐阜縣土岐津町醫師遠山道榮氏の次女に生れ幼い時から男勝りで最初は醫師を希望したが途中から教育家を志願し明治十七年岐阜縣から選抜されて東京女子師範へ入學、後高等師範學校現東京女子高等師範の前身)となつたが同二十年同校を卒業した、鹿鳴館時代華かなころ絶えず同館に出入してダンスもや

れば議論もするといふ、所謂當時のモガさんだつたころはあまりにも有名な逸話である。のち仙台の高等小學校(當時女學校はなかつた)にやられ、二十二年大阪堺女學校に轉任二十三年當時大阪梅花女學校の教頭であつた望月與三郎氏と結婚し二十五年夫と共に神戸へ來り布引に松蔭女學校を創設、間もなく出資者フォースなご意見合はず去り、二十六年岡山女子師範へ轉校同校は間もなく廢校となつたが同幼稚園に三十年までごごまり、三十五年兵庫幼稚園、三十六年京都府立第一高女を経て三十九年四月神戸幼稚園へ轉任、爾來滿二十七年同園の發展に力を盡し一時教育に疑義を生じたが夫の親友松本亦太郎博士の紹介で當時京大大學院で實驗心理學を研究してゐた榎崎淺太郎博士(現東京文理大教授)に指導され苦心慘憺六年前やつて現在布いてある個性教育の方針を確立したもので、女史の努力によつて神戸幼稚園が完成されたものといはれてゐる。夫は十數年前死別したが現在

三男二女共九人のお孫さんがあり、長女綾子さん(四〇)は大阪控訴院天野宗太郎氏に嫁ぎ長男晃は死亡、次男丈次氏(三五)は神戸で自働車商を営み三男活三氏(三二)は大阪商船あめりか丸の機關長、四男成思氏(三〇)は東

京正金銀行に務め次女シマ子さん(二七)はサンフランシ

スコの美術商柴田一郎氏に嫁ぎいづれも榮えて居る。

(神戸又新日報の記事による)

たより

○保育實習生二十四名、この三月卒業、親もとを離れて愈々一人立ちとなりました。何かと皆様方のお世話さまになることと存じます。何分よろしくお願ひいたします。

○主事のことばもう止めようと思ひました。がこればかりはと存じまして。それは或る會で餘興に是非業平朝臣になるべき人が入用、校長は直ちに倉橋主事を選定、事の意外に呆氣にとられた主事も、「どうして、なかく大したものと附言され

ましては自信が出たやうでした。さあ、それ以來冷かされるのなんのつて、ところが古往今來稀に見る業平に擬せられることは満更でもない様です。その後今業平氏、ふさはしき小町もがなと見まはしたところ、これは「ふとつちよ小町に瘦せ小町、喰ひしんぼ小町に眞黒小町と、つくく」と味氣なさに、中野なる千光の里にてひたすら思ひを詠歌によせて居られるさうでございます。

○同じ會にて。及川保母はやはり校長より「及川さんはなかく姿がいゝです、肥り

すぎでもなし、瘦せてもぬす、まあ中肉中………」とほめられました。あいにくこの中………は、はつきり聞えませんが。上に業平主事、中肉中………保母をいたゞいて保育道にいそしんでゐることは、願つてもなき仕合せと保母一同話しあつたことでございます。

○今年は春雨と名のみうるはしき降りの日多く、いつ迄もお寒うございます、みな様お大事に。(新庄)

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

日本幼稚園協會規則

會長

主幹

東京女子高等師範學校長
東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主事

吉岡 郷甫
倉橋 惣三

第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ釀出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

- 一、幼児教育ニ關スル研究及ヒ調査
- 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス

主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二等面一頁
半年分	金貳圓壹錢	金參拾圓	金貳拾圓
一年分	金四圓貳拾錢	一等面一頁	一頁以下
拾冊送	金貳拾五圓	御斷	
拾冊送	金貳拾五圓	御斷	

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）
昭和八年四月十二日印刷納本
昭和八年四月十五日發行

不許複製 禁止轉載

發行所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
振替口座東京一七二六六番

編輯者 倉橋 惣三
發行所 柴山 則常
印刷所 會社 杏林 舎

注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合は纏て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編纂

子供の舞踊

卷一・二

定價各冊

金六拾錢

送料各金六錢



内容一般

編纂並に振付は印牧・澁井・土川・土倉・三浦・宮寺の斯道の權威者によつてなされたもの、類書の最高峰幼稚園御關係諸先生に敢てすゝむ。

ラフテフ・タンポポ・ママゴト・エンソク・コヒノポリ・マリナゲ・オニゴツ
コ・ジドウシヤ・オヒサマ・チユリッブ・キンギヨ・ミヅアソビ・ハナ・ポテ
アメ・カヘル・オフネ・ワタシハ二ネンセイ・サクラ・五一デイサン・人形ノ兵
隊・小サナ遊ビ友達・雨ノヤム時・オ出デナサイ・オウマ・ナミ・ヒヨコ・ダル
マサン・ウサギ・オツキサマ・カケツコ・オヤスミ・ブランコ・ナハトビ・ユキ
ピアノ・マママキ・ギツコンバツタン・オサル・スナバホリマセウ・ワタシノ
オウテ・ヘイタイ・ヒカウキ・十五ヤ・汽車ノタビ・喜ビニミチテ・國民行進曲

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編纂

エホンシヨウカ

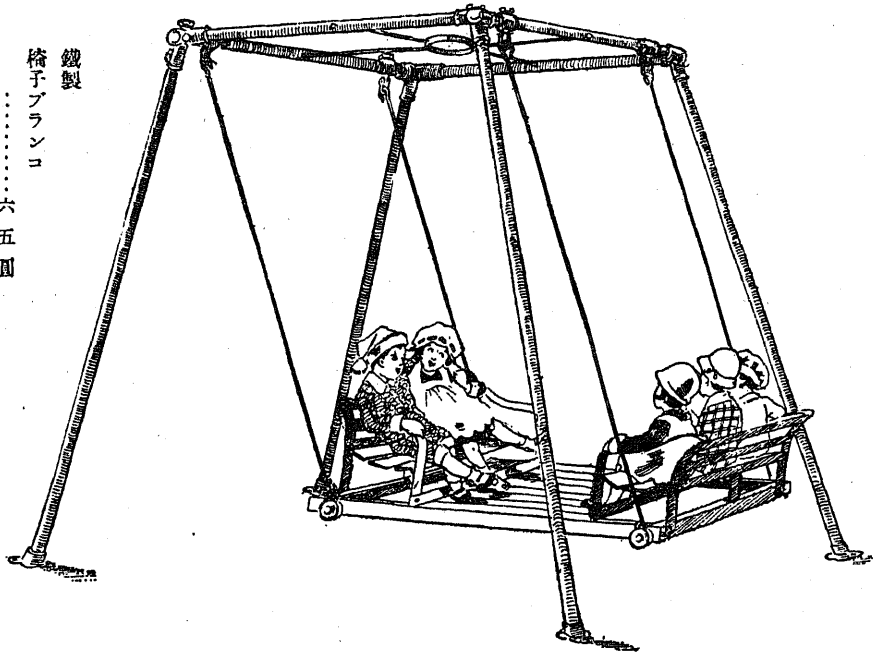
春の卷夏の卷秋の卷冬の卷

定價各金參拾五錢 送料各二錢

東京市神田區三崎町一ノ二

音樂教育書出版協會

振替東京六四七七〇番
電話神田(33)〇八三三番



鐵製
椅子ブランコ
.....六五圓

御園の御設備は

お整ひですか？

新しい御豫算のもとに、お安く丈夫に、保育用品の御設備を遊ばす絶好期、こ申すのは

一般の原料・工賃が下落したまゝに
而も、多量製産による合理的低價で

御用命に應じられますから。さてその品々

- ◇波動廻轉塔 Ocean Waves.....八
- ◇メリゴーランド.....八〇
- ◇大鼓梯子.....四〇
- ◇スマール・セット.....三〇
- ◇大型二十人乗シート.....七〇
- ◇箱積木.....一八〇
- ◇ヒル氏積木.....一三五
- ◇コンビネーション運動具.....一三五
- ◇梓登り.....一五
- ◇鐵製二人乗ブランコ.....五三
- ◇大型鐵製滑り臺.....七五
- ◇樂隊遊び用樂器一揃.....一八
- ◇人形芝居用舞臺・人形一揃.....四七
- ◇子供の家(社會遊び).....四七

◆手狭の爲め下記へ移轉いたしました。
おでかけの節はお立寄り下さいませ。

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回十五日發行)

昭和八年四月十二日印刷納本
昭和八年四月十五日發行

定價三十五錢

株式會社 三井物産 館ルベール

本店 東京・神田・小川路・電話九三二八七番
支店 大阪・東區・野町三番・電話六一三番